貝塚市埋蔵文化財調査報告　第76集

貝塚市遺跡群発掘調査概要30

2008．3．31

貝塚市教育委員会

はじめに

貝塚市は、大阪府の南部、泉州地域に位置し、北は岸和田市、南は熊取町・泉佐野市と隣接しています。西は大阪湾に面し、東に和泉葛城山を望む風光明媚な地であります。

今日、私たちを取り巻く社会や自然の環境は、急速な開発で大きく変貌を遂げつつあります。こうした開発が進む一方で、先人によって育まれた文化の痕跡である埋蔵文化財が失われています。このような埋蔵文化財を発掘調査によって文化の痕跡を記録することにより、その歴史を明らかにする一方で、私たちの日常生活が先人によって培われた文化の賜物であることを認識し、これからの発展の礎とするために未来へ引き継いでいく必要があります。

本書は、平成19年度中に実施いたしました緊急発掘調査の結果報告です。住宅建築に伴い、事前に実施した発掘調査であり、市域の歴史、文化を知るうえで欠かせない成果を得ることができました。

発掘調査ならびに本書の作成にあたり、多大なご指導、ご協力を賜りました関係各位に対し、深謝するともに、今後とも本市埋蔵文化財保護行政に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成20年3月31日

貝塚市教育委員会
教育長　山本　太三郎

例　　言

1．本書は貝塚市教育委員会が平成 19 年度に国庫補助金を受けて実施した、大阪府貝塚市域における埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。なお、遺物整理の都合から一部、平成 18 年度調査についても掲載している。

2．発掘調査は平成 19 年４月１日より実施し、平成 20 年３月 31 日に終了した。調査は木嶋崇晴が行った。

3．本書の執筆・編集は木嶋崇晴が行った。

4．出土遺物、調査記録は、貝塚市教育委員会において保管している。

5．本書の第３章においては、貝塚市教育委員会が平成３年および平成４年に国庫補助金を受けて実施した埋蔵文化財緊急発掘調査について、概要報告書に一部掲載できなかった調査を掲載している。

凡　　例

1．図７～18 の調査図面については、調査地位置図は縮尺１/5000、方位は座標北を上に統一している。また、調査区位置図の方位は磁北を示す。

2．本書で用いた標高は、東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。

3．本書の土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帳』1990 年度版を用いた。

4．貝塚市遺跡分布図については、貝塚市域に限定し、山間部の一部は掲載していない。

目　　次

はじめに
例　　言、凡　　例
目　　次（本文目次、挿図目次、図版目次、表目次）

第１章　平成 19 年発掘調査の概要 …… 1
第２章　調査の結果 …… 6

１．小瀬大道端遺跡　2007 - ７区 …… 6
２．小瀬五所山遺跡　2007 - 15 区 …… 6
３．貝塚寺内町遺跡　2006 - 61 区、2007 - 22 区 …… 7
４．加治・神前・畠中遺跡　2006 - 71 区、2007 - 21 区、2007 - 36 区、2007 - 16 区、2007 - 43 区 …… 8
５．新井ノ池遺跡　2007 - 31 区 …… 12
６．海塚遺跡　2007 - 17 区 …… 12
７．脇浜遺跡　2007 - 33 区、2007 - 42 区 …… 14
８．石才南遺跡　2006 - 62 区 …… 15
９．地蔵堂遺跡　2006 - 73 区、2007 - 14 区 …… 18
10．沢城跡　2006 - 68 区 …… 18
11．窪田遺跡・窪田廃寺　2007 - 32 区 …… 20
12．堤三宅遺跡　2007 - 37 区 …… 21
13．王子西遺跡　2007 - 35 区 …… 21

第３章　平成３年・平成４年の調査 …… 23

挿図目次

図１　貝塚市遺跡分布図
図２　調査地位置図
図３　調査地位置図
図４　調査地位置図
図５　2007－７区
図６　2007－15区
図７　2006－61区・2007－22区
図８　2006－71区・2007－21区・2007－36区
図９　2007－16区・2007－43区
図10　2007－31区
図11　2007－17区
図12　2007－33区・2007－42区
図13　2006－62区
図14　2006－73区・2007－14区
図15　2006－68区
図16　2007－32区
図17　2007－37区
図18　2007－35区
図19　調査地位置図　（平成３年・４年）
図20　調査地位置図　（平成３年・４年）
図21　調査地位置図　（平成３年・４年）
図22　調査地位置図　（平成３年・４年）

図版目次

図版１　小瀬大道端遺跡（2007－７区）
小瀬五所山遺跡（2007－15区）
1. 2007－７区　遺構検出状況　（北より）
2. 2007－15区　完掘状況　（西より）
図版２　貝塚寺内町遺跡（2006－61区・2007－22区）
1. 2006－61区　完掘状況　（西より）
2. 2007－22区　遺構完掘状況　（北より）
図版３　加治･神前･畠中遺跡（2006－71区・2007－21区）
1. 2006－71区　完掘状況　（西より）
2. 2007－21区　完掘状況　（南東より）
図版４　加治･神前･畠中遺跡（2007－36区・2007－16区）
1. 2007－36区　完掘状況　（東より）
2. 2007－16区　完掘状況　（東より）
図版５　加治･神前･畠中遺跡（2007－43区）
1. 2007－43区　調査区１　完掘状況　（北より）
2. 2007－43区　調査区２　遺構検出状況　（南より）
図版６　加治･神前･畠中遺跡（2007－43区）
1. 2007－43区　調査区２　SD－1断面　（西より）
2. 2007－43区　調査区２　SD－1断面　（南より）
図版７　新井ノ池遺跡（2007－31区）
1. 2007－31区　完掘状況　（東より）
2. 2007－31区　調査区南壁断面　（北より）
図版８　海塚遺跡（2007－17区）
石才南遺跡（2006－62区）
1. 2007－17区　遺構検出状況　（北より）
2. 2006－62区　遺構完掘状況　（北より）
図版９　脇浜遺跡（2007－33区・2007－42区）
1. 2007－33区　完掘状況　（北より）
2. 2007－42区　遺構検出状況　（西より）
図版10　地蔵堂遺跡（2006－73区・2007－14区）
1. 2006－73区　調査区２　完掘状況　（西より）
2. 2007－14区　完掘状況　（西より）
図版11　沢城跡（2006－68区）
窪田遺跡・窪田廃寺（2007－32区）
1. 2006－68区　完掘状況　（西より）
2. 2007－32区　完掘状況　（西より）
図版12　堤三宅遺跡（2007－37区）
王子西遺跡（2007－35区）
1. 2007－37区　調査区３　遺構検出状況　（東より）
2. 2007－35区　遺構完掘状況　（東より）

表目次

表１．平成19年国庫補助事業一覧
（平成19年１月～12月）
表２．平成３年・平成４年国庫補助事業一覧

第１章　平成 19 年発掘調査の概要

平成 19 年の埋蔵文化財発掘届出及び通知の総件数は 371 件、遺跡外試掘調査依頼は 22 件である。

届出・通知にかかわる対応について、確認調査は 68 件、立会調査は 122 件、慎重工事は 180 件、府にて対応は５件である。このうち個人住宅の建設に伴う調査は 20 件である。

分譲住宅の件数は増加傾向にあり、その要因としては、森下代遺跡、沢西遺跡において大規模な宅地開発が行われ、分譲住宅の建設が始まったためである。半田遺跡、新井・鳥羽北遺跡等では宅地開発が進んでおり、来年度以降も分譲住宅の届出件数は増加すると考えられる。

個人による住宅建築は、74 件で昨年と比較してやや減少傾向である。数年前から個人住宅における地盤改良や柱状改良等の耐震工事を行う件数が増えている。

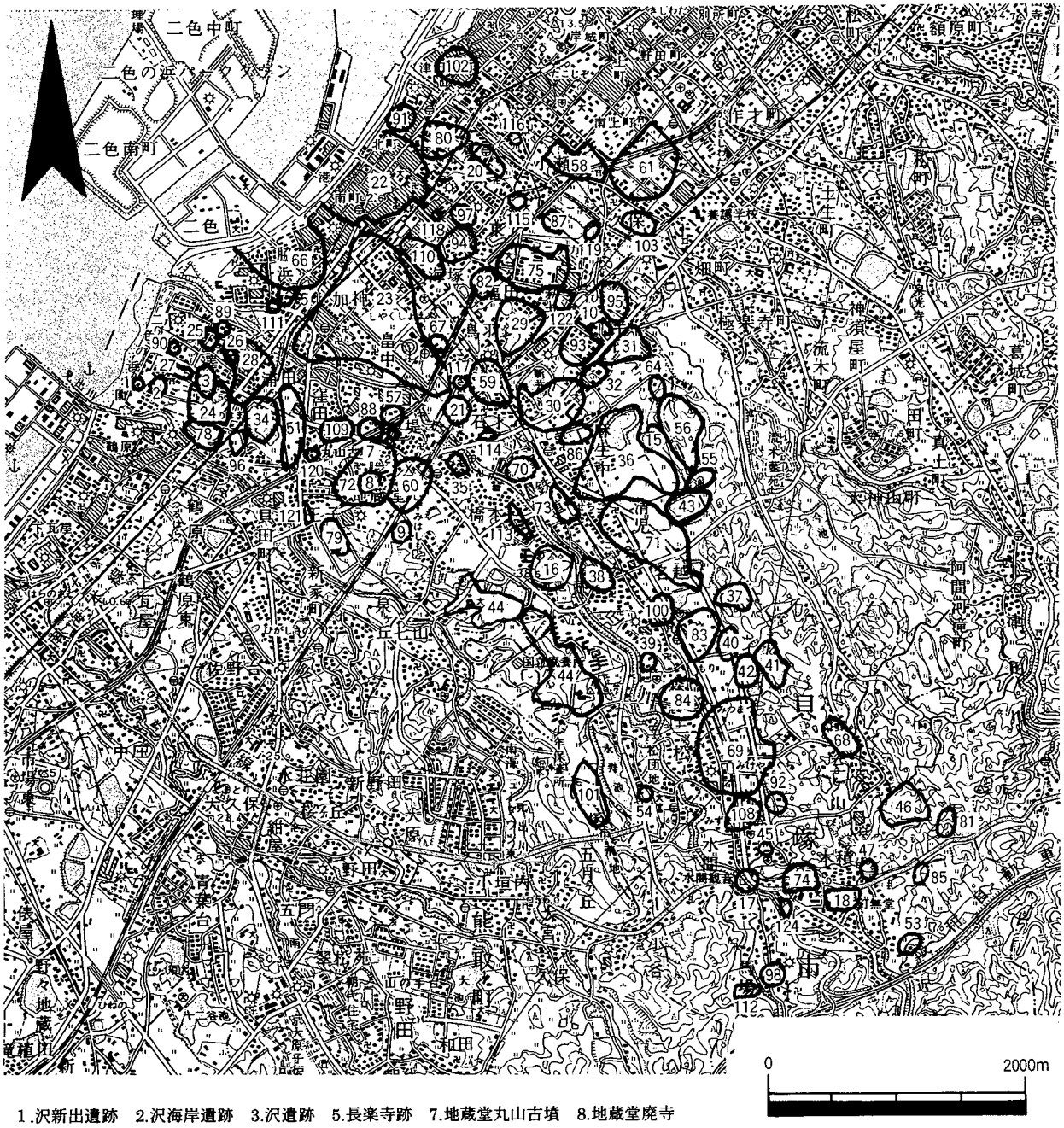
住宅以外の開発は、宅地造成 13 件、共同住宅２件、店舗５件であり、宅地造成、共同住宅については前年と比較すると大幅に減少している。

遺跡範囲外においての開発は 22 件であり、その目的は宅地造成９件、共同住宅１件、工場５件、土砂採取１件、その他６件である。遺跡範囲外での開発は前年に比べ増加している。

新規の遺跡発見については、橋本原宮遺跡を登録した。今年度の遺跡範囲の拡張はなかった。

	遺跡名	調査番号	遺跡略号	開発地
	(平成18年度)			
1	貝塚寺内町遺跡	2006-61	JN	南町1183
2	石才南遺跡	2006-62	ISS	麻生中452-10
3	沢城跡	2006-68	SJ	沢678-8、678-3の一部、678-5の一部、678-7の一部
4	加治・神前・畠中遺跡	2006-71	KKH	畠中1-233-8、233-10
5	地蔵堂遺跡	2006-73	GZZ	堤51-9
	(平成19年度)			
6	小瀬大道端遺跡	2007-7	KSO	小瀬530-5、-6
7	地蔵堂遺跡	2007-14	GZZ	堤51-10
8	小瀬五所山遺跡	2007-15	KGY	久保144-15
9	加治・神前・畠中遺跡	2007-16	KKH	加神2-134、135-2、136-2
10	海塚遺跡	2007-17	UD	海塚210-3
11	加治・神前・畠中遺跡	2007-21	KKH	加神1-170-3の一部
12	貝塚寺内町遺跡	2007-22	JN	北町76
13	新井ノ池遺跡	2007-31	NI	麻生中783-1
14	窪田遺跡・窪田廃寺	2007-32	KTK	王子917-6
15	脇浜遺跡	2007-33	WH	脇浜1-251-1の一部
16	王子西遺跡	2007-35	OGN	王子37-3
17	加治・神前・畠中遺跡	2007-36	KKH	加神1-170-3
18	堤三宅遺跡	2007-37	TM	堤279-4、279-5
19	脇浜遺跡	2007-42	WH	脇浜2-405-1
20	加治・神前・畠中遺跡	2007-43	KKH	加神1-165-1、-6、-19

表1　平成19年国庫補助事業一覧（平成19年１月～12月）



1.沢新出遺跡　2.沢海岸遺跡　3.沢遺跡　5.長楽寺跡　7.地蔵堂丸山古墳　8.地蔵堂廃寺　9.下新出遺跡　10.秦廃寺　15.麻生中新池遺跡　16.河池遺跡　17.水間寺遺跡　18.木積観音寺跡　20堀遺跡　21橋本遺跡　22.貝塚寺内町遺跡　23.加治・神前・畠中遺跡　24.明楽寺跡　25.沢共同墓地遺跡　26.沢西出遺跡　27.沢海岸北遺跡　28.沢城跡　29.新井・鳥羽遺跡　30.新井ノ池遺跡　31.半田遺跡　32麻生中遺跡　34.澱池遺跡　35.積善寺城跡　36.清児遺跡　37.集原池遺跡　38.高井天神廃寺・高井城跡　39.森城跡　40.森B遺跡　41.森ノ大池遺跡　42.森A遺跡　43.二ツ池遺跡　44.千石堀城跡　45.水間墓地　46.三ヶ山城跡　47.片山墓地　51.窪田遺跡・窪田廃寺　53.坊城遺跡　54.三ツ松遺跡　55.槍ヶ谷城跡　56.半田遺跡（清児地区）　57.堤遺跡　58.小瀬五所山遺跡　59.石才遺跡　60.王子遺跡　61.土生遺跡　64.海岸寺山遺跡　66.脇浜遺跡　67.今池遺跡　68.三ヶ山遺跡　69. 三ヶ山西遺跡　70.石才南遺跡　71.名越遺跡　72.地蔵堂遺跡　73.名越西遺跡　74.木積遺跡　75.新井・鳥羽北遺跡　78.沢西遺跡　79.王子西遺跡　80.津田遺跡　81.三ヶ山オニ谷遺跡　82.福田遺跡　83.森下代遺跡　84.三ツ松北垣外遺跡　85.薬師池西遺跡　86.麻生中出口遺跡　87.小瀬遺跡　88.堤三宅遺跡　89.沢新開遺跡　90.沢タナジリ遺跡　91.堀新遺跡　92.橘池遺跡　93.麻生中下代遺跡　94.堀秋毛遺跡　95.半田北遺跡　96.沢老ノ塚遺跡　97.東遺跡　98.馬場遺跡　100.鳥の池西遺跡　101.白地谷遺跡　102.津田北遺跡　103.久保遺跡　108.水間二ノ戸遺跡　109.窪田ハマデ遺跡　110.海塚遺跡　111.脇浜川端遺跡　112.馬場笹力遺跡　113.橋本野岸ノ下遺跡　114.麻生中薬師堂遺跡　115.谷池遺跡　116.小瀬大道端遺跡　117.石才通井口遺跡　118.海塚宝伝遺跡　119.小瀬与九郎遺跡　120.王子大イケダイ遺跡　121.王子ヨウサ遺跡　122.半田ヨコマクラ遺跡　123.堤西浦遺跡　124.木積下代遺跡

図1　貝塚市遺跡分布図（部分・貝塚市域のみ）

図2　調査地位置図

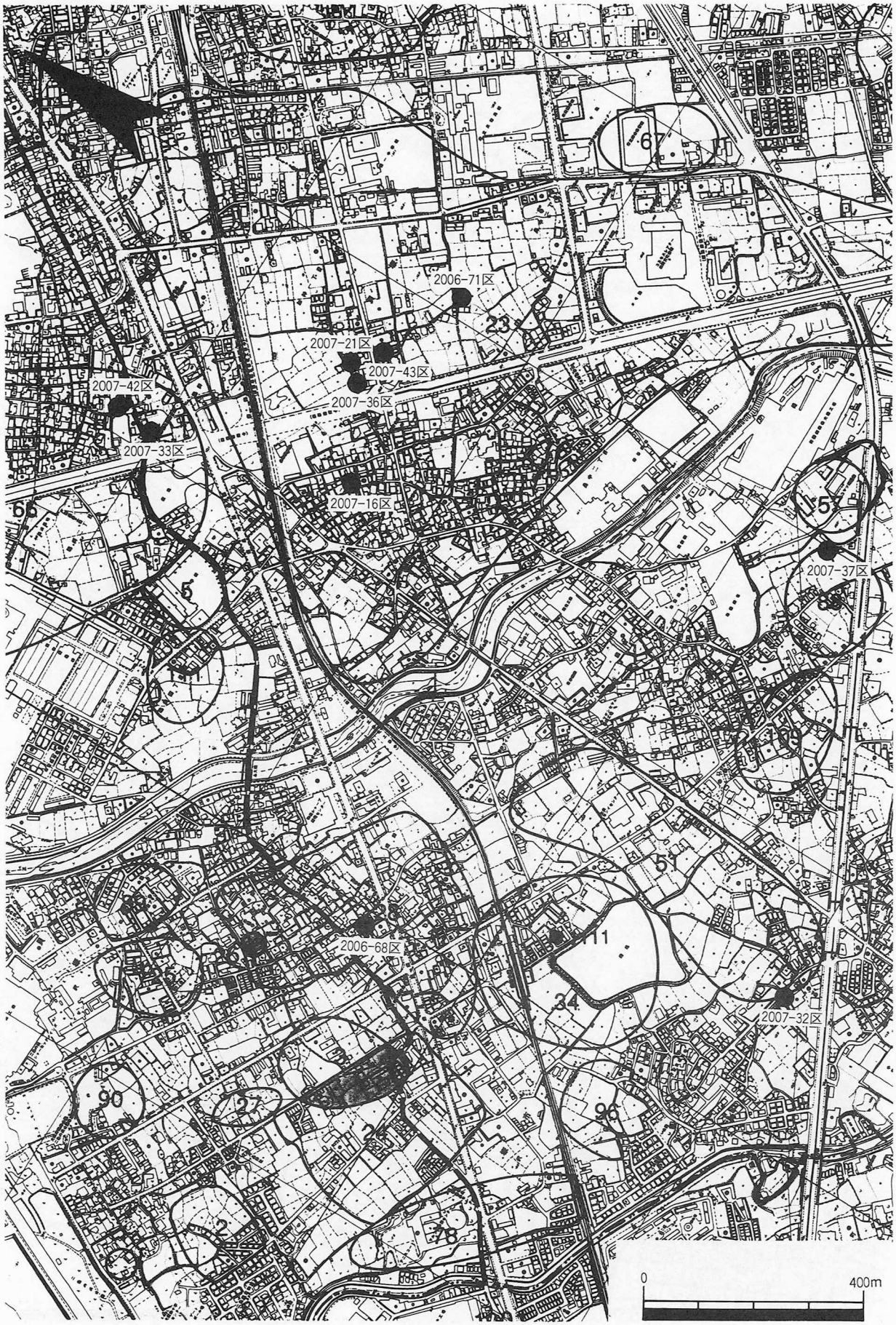

2006-71区
2007-21区
2007-43区
2007-42区
2007-36区
2007-33区
2007-16区
2007-37区
2006-68区
2007-32区
0
400m

図3　調査地位置図

2007-31区
2006-62区
2007-14区
2006-73区
2007-35区
30
70
16
44
60
9
0
400m

図4　調査地位置図

第２章　調査の成果

１．小瀬大道端遺跡

本遺跡は、津田川左岸の中位段丘上、標高約４mに立地する。本遺跡は平成 16 年３月に新規に遺跡登録しており、中世の集落跡と推定している。平成 15 年度（2003 年）の試掘調査では、土師器、瓦器が出土しており、中世の遺物包含層を確認している。

2007 - 7 区の調査（図５・図版１）

本調査は、小瀬 530 - 5、530 - 6 において実施した。調査は、申請地内において調査区（4.25 ㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が炭化物を多量に含む盛土、２層は黄灰色土混じり灰黄褐色土、３層は明黄褐色粘質シルト（地山）である。２層は遺物包含層であり、土師器が出土している。

地山面において遺構検出を行い、東西方向と南北方向の鋤溝を検出した。鋤溝より遺物は出土していない。

本申請地の西側隣地の調査において中世の遺物包含層を検出していることにより、今回の調査で検出した鋤溝は中世の耕地跡に伴うものと考えられる。

２．小瀬五所山遺跡

本遺跡は、津田川右岸下流域の河岸段丘上、標高は 7m～10mに立地する。周知の遺跡として弥生～古墳時代・中世の散布地・集落跡である。本市による平成 14 年度（2002 年）の調査においては、６～７世紀代の遺物を中心に出土しており、溝２条、柱穴 20 基、土坑４基、掘立柱建物２棟等を検出している。

2007 - 15 区の調査（図６・図版１）

本調査は、久保 144 - 15 において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（６㎡）を設定して

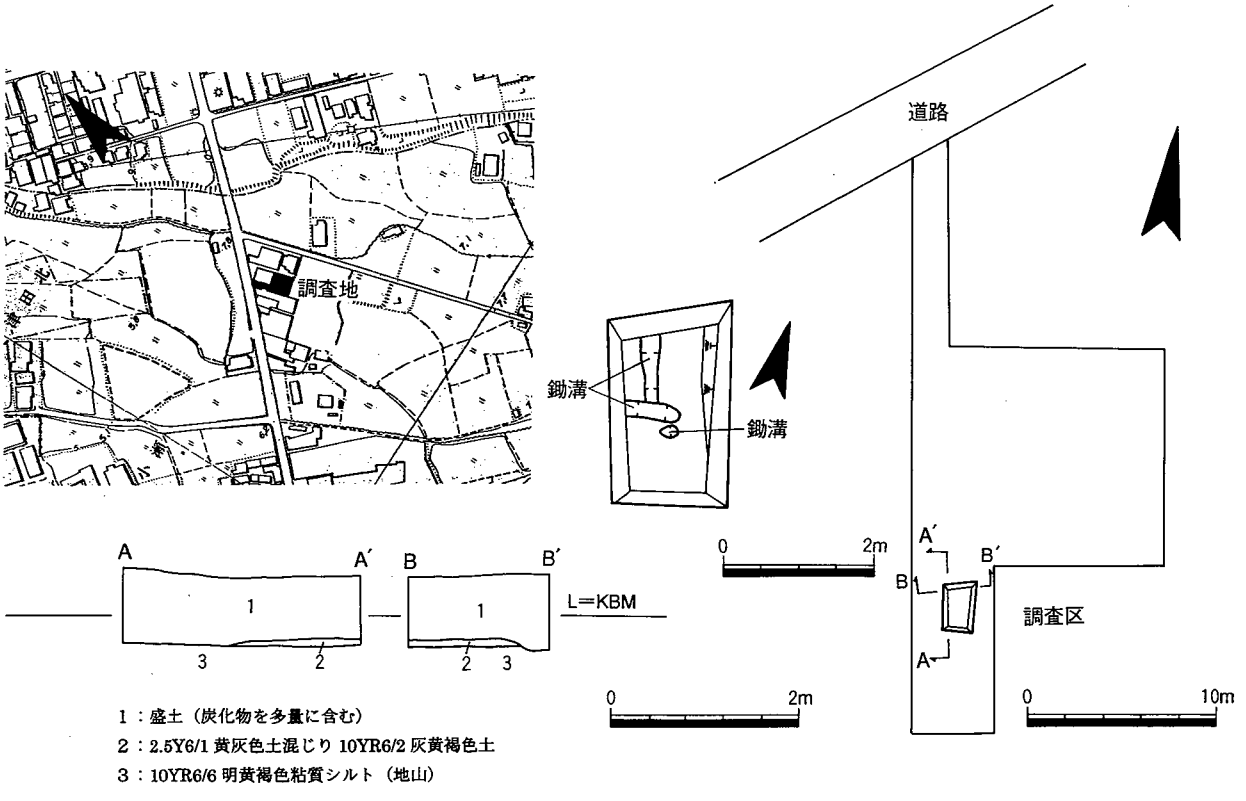


図5　2007- 7 区

行った。

調査区の層序は、１層が盛土、２層は旧耕土と撹乱、３層はにぶい黄橙色土（床土）、４層は灰黄褐色礫混じり砂質シルト、５層は灰オリーブ色砂礫である。地山は確認できなかった。

４層・５層は河川堆積層であり、湧水が著しく河川底部は確認できなかった。河川堆積層より遺物は出土していないため、埋没時期等は不明である。

申請地は土地の削平を受けており、遺物包含層および遺構は確認できなかった。

３．貝塚寺内町遺跡

本遺跡は、本市北西部の海岸部に位置し、標高は２～11m、願泉寺を中心として中世末期に成立した寺内町であり、周囲に濠や土塁をめぐらせた城郭寺院跡である。願泉寺は天正年間には一時、本願寺が置かれるなど真宗寺院のなかでも特別な存在であった。本遺跡の調査では、濠、土塁の他、溝、土坑、井戸、埋甕、水琴窟等を近世後半の遺構を多数検出している。遺物は瓦、陶磁器、土器が出土、供膳具、調理具、暖房・照明具等が多数出土している。

2006－61 区の調査（図７・図版２）

本調査は、南町 1183 において実施した。調査は、申請地内において調査区（６㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が盛土、２層は撹乱、３層は灰白色砂、４層は褐灰色土、５層は浅黄色砂、６層は黄灰色粘質土、７層はにぶい黄色砂、８層は褐灰色砂礫混じり粘質土、９層はにぶい黄橙色砂～砂礫（地山）である。

盛土および撹乱より瓦、陶磁器等が出土している。３・５・７層は砂を主体とする整地層であり、これらの層より遺物は出土していない。４・６・８層は粘質土を主体とする土間層である。４・６層で瓦が出土しているが、８層より遺物は出土していない。８層・９層の各上面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

各土間層および整地層の時期については、出土した遺物量が少ないため不明であるが、おそらく近世後半以降のものと考えられる。

本申請地の東側で平成 16 年度に実施した調査において、今回の調査成果と同様の土間層および整地層を確認している。このことから、建物の建て替えに際しては、砂を整地土として用いていたと考えられる。

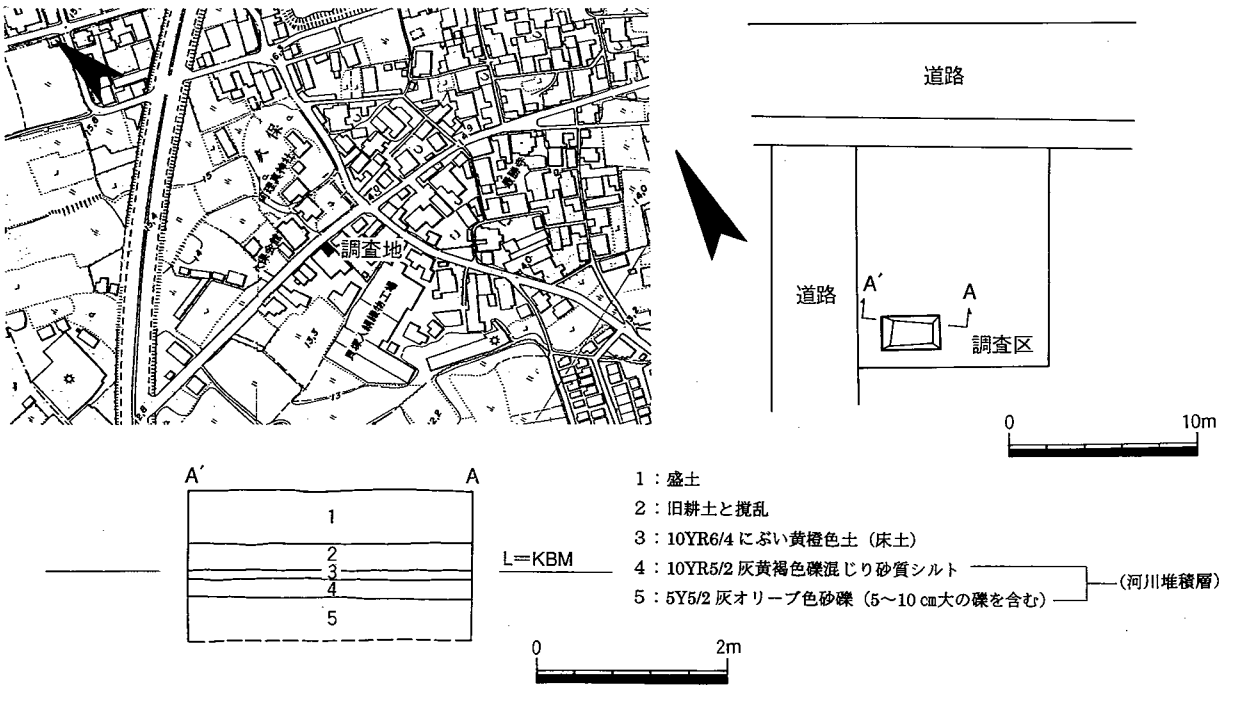


図6　2007-15区

2007－22区の調査（図７・図版２）

本調査は、北町76において実施した。調査は、申請地内において調査区（5.1㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が盛土、２層は撹乱、３層は灰黄色土、４層は灰白色粘質土、５層は浅黄色砂礫、６層は灰黄褐色砂礫混じり土、７層は灰黄褐色土、８層は黄灰色礫混じり粘質土、９層は褐灰色シルト、10層はにぶい黄橙色砂、11層はにぶい黄橙色礫（地山）である。

１層から３層は盛土および撹乱層、４層は粘質土の土間層、５層はブロック土と考えられる。６層・７層は遺物包含層であり、陶磁器、瓦等が出土している。６層・７層の時期については出土遺物により近世後半以降と考えられる。

地山面において遺構検出を行い、溝２条を検出した。ＳＤ－１の規模は、検出幅0.5m、深さ0.46mである。埋土は黄灰色礫混じり粘質土（８層）であり、瓦が出土している。ＳＤ－２の規模は、検出幅0.5m、深さ0.5mである。埋土は上層が褐灰色シルト（９層）、下層はにぶい黄橙色砂（10層）であり、遺物は出土していない。

これらの溝については、時期を判断できる遺物が出土していないため不明であるが、７層の出土遺物の時期が、近世後半以降と考えられることから、ＳＤ－１・２についても近世後半頃に設けられたものと考えられる。また、ＳＤ－１・２の埋土の土質が異なっているため溝に時期差があったものと推測される。

申請地南側に現在、排水溝が存在していることから、これと平行に設けられているＳＤ－１・２は、近世後半頃の排水溝と考えられる。

４．加治・神前・畠中遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高11～20mに位置する。これまでの調査で弥生時代の井戸跡、古墳時代前期の掘立柱建物跡、古墳時代後期の竪穴住居跡、古代の掘立柱建物跡、竪穴住居跡、井戸跡、溝跡等を検出しており、古代においては集落跡もしくは公的施設が存在した可能性がある。平成12年度（2000年）の調査において平安時代の瓦窯跡を10基検出しており、生産施設の存在が明らかとなっている。

2006－71区の調査（図８・図版３）

本調査は、畠中１－233－8、233－10において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（4.5㎡）を設定して実施した。

調査区の層序は、１層が盛土、２層は撹乱、３層はオリーブ黄色土、４層は灰黄色砂質土（旧耕土）、５層は灰黄色土、６層は褐灰色シルト、７層は褐灰色粘質シルト、８層は明黄褐色粘土（地山）である。

５層・６層より土師器が出土しているが、７層より遺物は出土していない。調査区壁面の断面観察により７層は粘質シルトを主体としていることにより、滞水状態であったものと考えられる。５層・６層は出土遺物等により中世の耕土層と考えられる。

地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

調査区は大きく撹乱を受けていたが、調査区の壁面等により７層が滞水状態であることから、本申請地は中世以前には湿地であったものと推測され、その後、中世に耕地として利用されたものと考えられる。

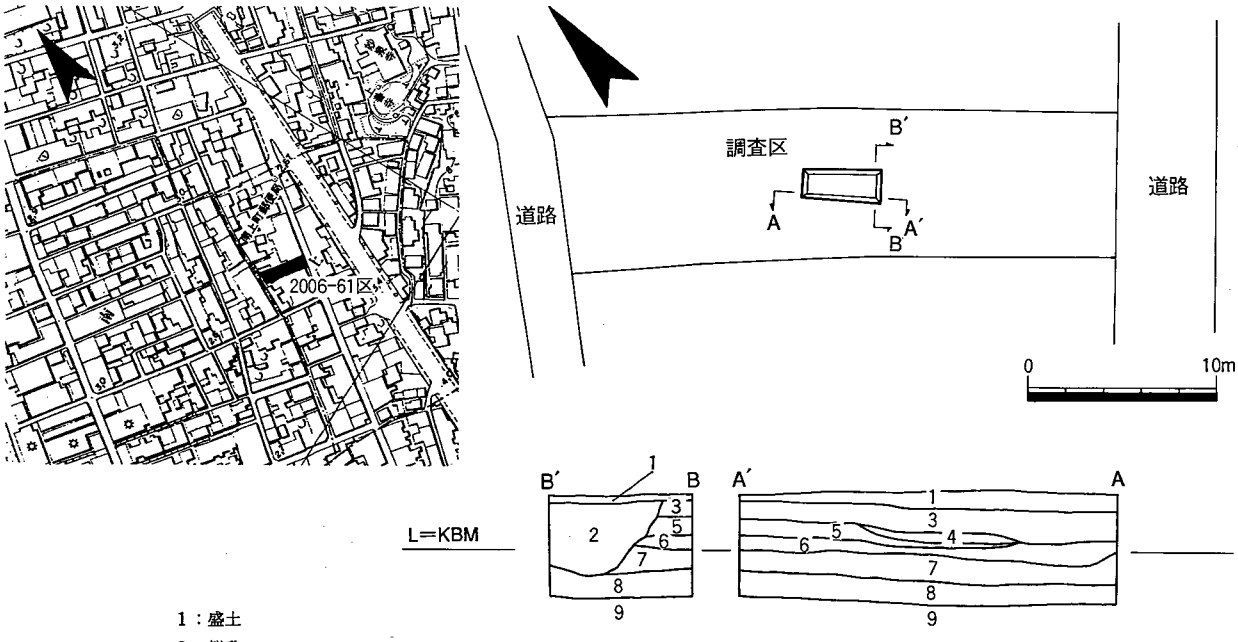
2007－21区の調査（図８・図版３）

本調査は、加神１－170－3の一部において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（６㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層は盛土および撹乱、２層は灰黄褐色土（床土）、３層は黄灰色土、４層は灰黄色粘質土、５層は褐灰色粘質土、６層は黄褐色礫混じり粘土（地山）である。

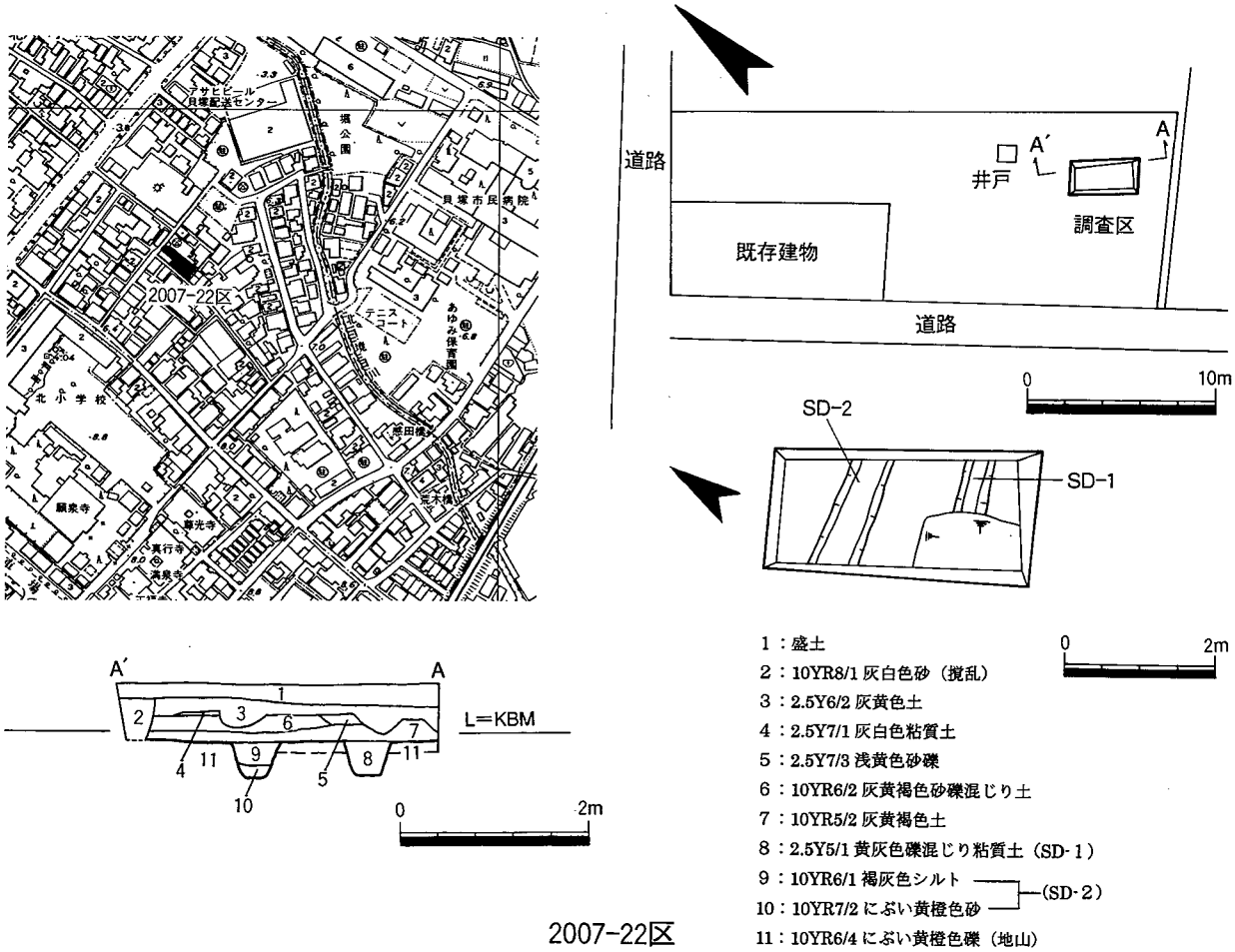
３層～５層は遺物包含層と考えられ、４層・５層より土師器、瓦器、須恵器、白磁が出土している。これらの層は中世の遺物包含層と考えられる。

地山面において遺構検出を行ったが、撹乱や土地の削平等により遺構を確認することはできなかった。



1：盛土
2：撹乱
3：10YR8/2 灰白色砂
4：10YR5/1 褐灰色土
5：2.5Y7/3 浅黄色砂
6：2.5Y6/1 黄灰色粘質土
7：2.5Y6/3 にぶい黄色砂
8：10YR4/1 褐灰色砂礫混じり粘質土
9：10YR7/2 にぶい黄橙色砂～砂礫（地山）

2006-61区



1：盛土
2：10YR8/1 灰白色砂（撹乱）
3：2.5Y6/2 灰黄色土
4：2.5Y7/1 灰白色粘質土
5：2.5Y7/3 浅黄色砂礫
6：10YR6/2 灰黄褐色砂礫混じり土
7：10YR5/2 灰黄褐色土
8：2.5Y5/1 黄灰色礫混じり粘質土（SD-1）
9：10YR6/1 褐灰色シルト ―(SD-2)
10：10YR7/2 にぶい黄橙色砂 ―(SD-2)
11：10YR6/4 にぶい黄橙色礫（地山）

2007-22区

図7　2006-61区・2007-22区

本申請地の北東側の調査では、砂礫を主体とする流路堆積層を確認しており、申請地付近においては流路の埋没後に耕地として利用されたものと推測される。

2007－36区の調査（図８・図版４）

本調査は、加神１－170－３において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（3.75㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層・２層が盛土、３層は灰黄褐色土、４層は褐灰色土、５層は黄灰色粘質土、６層は褐灰色粘質シルト、７層はにぶい黄色シルト（地山）である。

３層～５層は遺物包含層と考えられ、４層・５層より土師器、瓦器、須恵質土器が出土している。６層上面において遺構検出を行い、鋤溝を検出した。３層～５層は中世の耕地層と考えられる。

６層より遺物が出土していないため、詳細な時期は不明であるが、周辺の調査事例により弥生時代～古墳時代にかけての遺物包含層の可能性がある。地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

検出した褐灰色粘質シルト層（６層）については、本申請地の東隣地の調査では確認していないため、本申請地は東隣地よりも地形的に低い、窪地状になっていたものと推測される。

申請地周辺については、中世における土地開発によって削平を受けているが、本申請地の地山面は周辺の地形よりも低いため、弥生時代～古墳時代にかけての褐灰色粘質シルト層（６層）が残存したものと考えられる。

2007－16区の調査（図９・図版４）

本調査は、加神２－134、135－２、136－２において実施した。調査は、申請地内において調査区（12㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が盛土、２層・３層は礫を多く含む撹乱、４層は近世瓦等を含む盛土、５層は黄灰色土混じり灰黄色土、６層は浅黄色小礫を含む暗灰黄色粘質土、７層は黄灰色土混じりにぶい黄色粘質シルト、８層は褐灰色小砂礫混じり粗砂、９層は灰黄褐色礫混じり砂質シルト、10層は灰色礫混じり粗砂、11層はオリーブ黄色砂礫（地山）である。

１層～４層は盛土および撹乱層である。５層は遺物が出土していないため、時期は不明であるが、土質等の観察により近世以降の層と考えられる。

６層より弥生時代後期の土器が出土している。６層上面で遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。７層は粘質シルトを主体とするが、遺物は出土していない。８層～10層は流路堆積層であり、遺物は出土していない。８層と９層・10層の堆積層とは土質が異なるため、８層の流路２と９層・10層の流路１とに大別した。

申請地およびその周囲については、土地の削平や撹乱を受けていたが、本申請地においては弥生時代後期の遺物包含層を確認した。本遺跡においては、本市および㈶大阪府文化財センターの発掘調査によって弥生時代から古墳時代にかけての集落を確認しており、申請地周辺においても集落域および活動域に含まれるものと推測される。

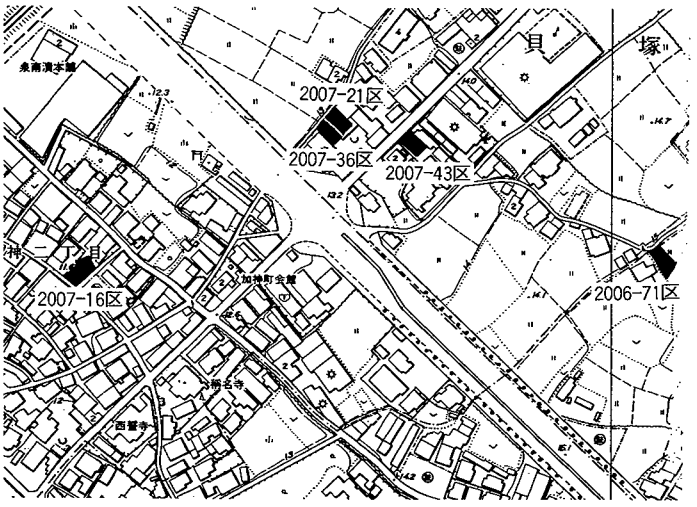
2007－43区の調査（図９・図版５・６）

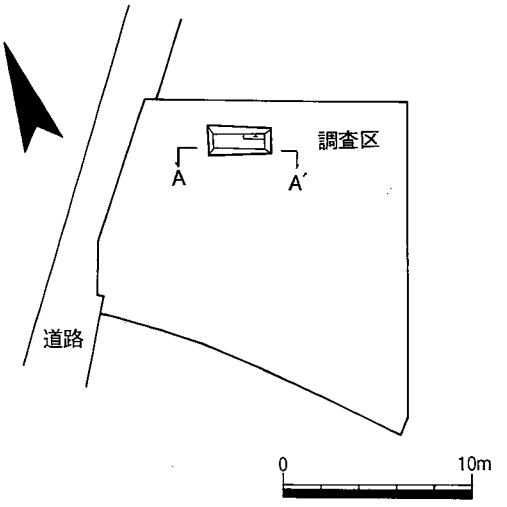
本調査は、加神１－165－１、－６、－19において実施した。調査は、申請地の建物部分と浄化槽部分の２箇所の調査区（計20㎡）を設定して行った。

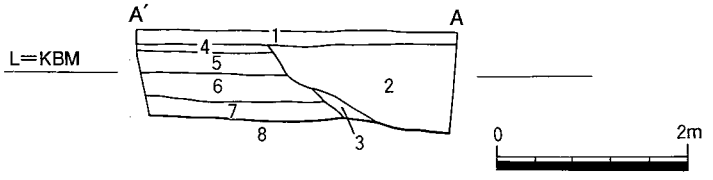
調査区１・２の基本層序は、調査区１を基準に第１層は盛土・撹乱・旧耕土、第２層はにぶい黄橙色土混じり黄灰色土、第３層は黄灰色細砂混じり土、第４層は褐灰色粘質土、第５層はにぶい黄色土混じり黄灰色粘質土、第６層は褐灰色粘質土、第７層は黒褐色粘質土、第８層は黄褐色粘質シルト（地山）である。

第２層から第６層は中世の遺物包含層であり、土師器、瓦器、瓦が出土している。

第７層より弥生土器、土師器が出土しており、弥生時代から古墳時代にかけての遺物包含層の可能性があるが、調査区１・２において部分的に残存していることから、中世の段階に削平を受けている可能性がある。

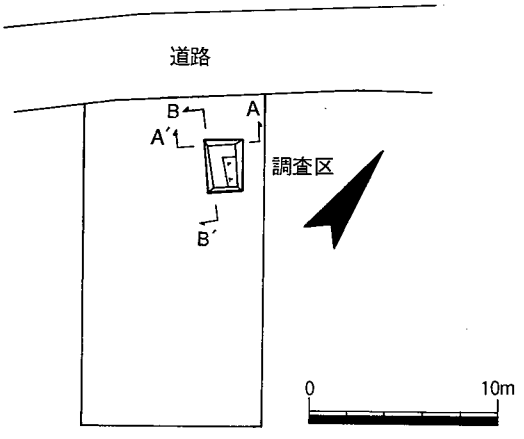


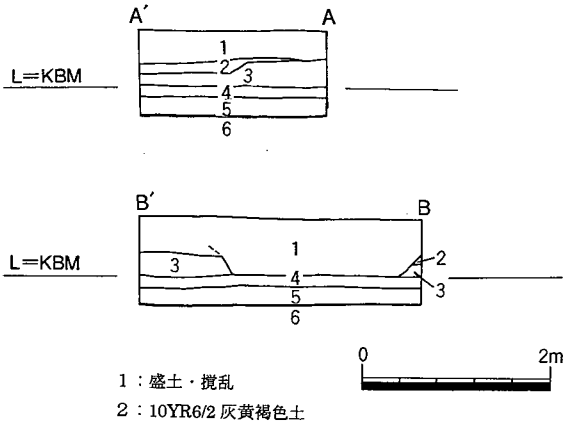




1：盛土
2：撹乱
3：5Y6/3 オリーブ黄色土
4：2.5Y7/2 灰黄色砂質土
5：2.5Y6/2 灰黄色土
6：10YR6/1 褐灰色シルト
7：10YR4/1 褐灰色粘質シルト
8：2.5Y7/6 明黄褐色粘土（地山）

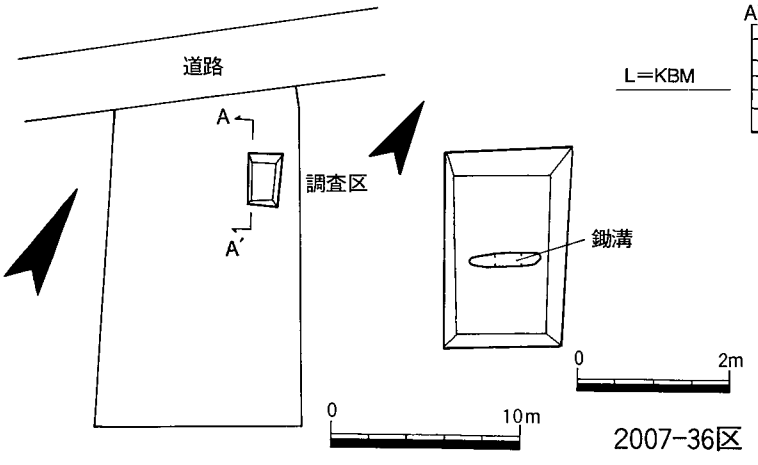
2006-71区

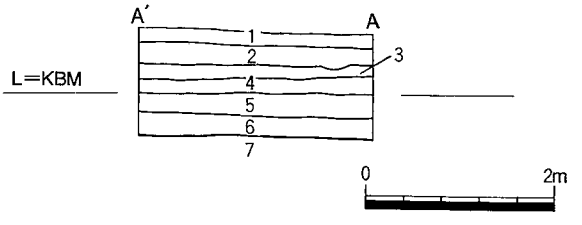




1：盛土・撹乱
2：10YR6/2 灰黄褐色土
3：2.5Y6/1 黄灰色土
4：2.5Y6/2 灰黄色粘質土
5：10YR5/1 褐灰色粘質土
6：2.5Y5/4 黄褐色礫混じり粘土（地山）

2007-21区





1：盛土1
2：盛土2
3：10YR6/2 灰黄褐色土
4：10YR6/1 褐灰色土
5：2.5Y5/1 黄灰色粘質土
6：10YR4/1 褐灰色粘質シルト
7：2.5Y6/4 にぶい黄色シルト（地山）

2007-36区

図8　2006-71区・2007-21区・2007-36区

調査区１・２の地山面において遺構検出を行い、調査区１で落込み状遺構、調査区２で鋤溝、溝を検出した。

調査区１・２において検出した落込み状遺構は、黒褐色粘質シルトを埋土としており、第７層と土質が類似していることから時期は弥生時代～古墳時代と考えられる。

調査区２より北西－南東方向の鋤溝３条を検出した。遺物は出土していない。

調査区２東側において北西－南東方向の溝（ＳＤ-１）を検出した。ＳＤ-１の規模は幅 1.5m以上、深さ約１ｍを測る。ＳＤ-１の埋土は、上層の地山のブロック土が混入する黒褐色粘土と下層の褐灰色粘土に大別できる。遺物は上層より瓦器、瓦等、下層より瓦が多数出土している。ＳＤ-１の堆積状況は、下層は水分を多く含む粘土層を主体とし、溝に水の流れがなくなると滞水状態になっていたと推測される。また、下層においては砂粒が部分的に観察できることから、断続的に水の流れがあったと考えられる。下層より瓦や 20 ㎝大の石が廃棄されていた。上層はブロック土が混在することにより人為的に埋められた可能性がある。

ＳＤ-１は基本層序の第６層より掘り込まれた水路であったと考えられるが、遺構の規模が大きいことから、室町時代末期に築かれた畠中城に伴う濠であった可能性もある。申請地を含む周辺には「トウゲンジ上」、「トン行寺」等の小字名が残っていることや検出した溝より瓦が大量に出土していることから、寺院に関連する遺構である可能性もある。

５．新井ノ池遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約 28mに位置する。周知の遺跡として弥生時代から古墳時代、中世にかけての散布地、集落跡と推定され、中世に熊野詣で賑わった熊野街道沿いに位置する。本市によるこれまでの調査では平安時代の掘立柱建物跡や中・近世の耕地跡に伴う鋤溝、溝等を検出している。

2007 - 31 区の調査（図 10・図版７）

本調査は、麻生中 783 - 1 において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（６㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が盛土、２層は旧耕土、３層はにぶい黄橙色土（床土）、４層は褐灰色粘質土、５層は黄灰色小礫混じり粘質土、６層は灰黄色粘質土、７層は褐灰色砂混じり粘土、８層・９層は地山であり、８層は灰色砂礫、９層は浅黄色砂礫である。10 層は灰黄褐色粘質土（落込み状遺構）である。

４層～６層より土師器細片を確認していることにより中世以降の遺物包含層と考えられる。

地山面において遺構検出を行い、落込み状遺構と流路の一部を検出した。

落込み状遺構は、調査区西側において検出しており、その規模は調査区外に及ぶため不明である。遺構の深さは 0.05mであり、埋土は灰黄褐色粘質土（10 層）である。遺物は土師器が出土している。

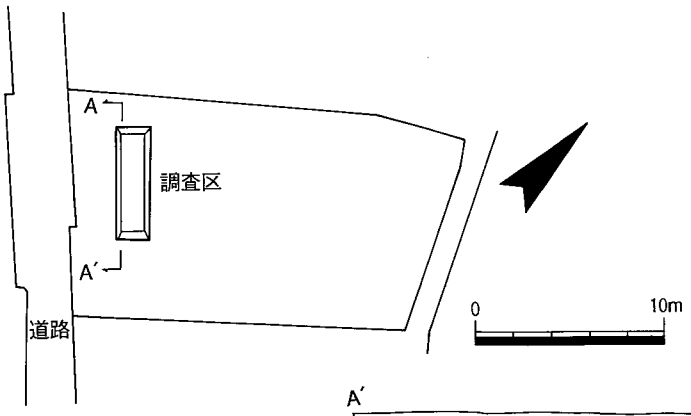
調査区東側において流路を検出した。流路の深さは 0.25mであり、流路幅は調査区外に及ぶため不明である。流路は地形等により北東方向に流れていたものと推測される。流路堆積層（７層上層）より土師器、瓦器が出土しており、流路は中世段階において埋没したと考えられる。また、流路堆積層にヨシと思われる植物遺体が認められたため、流路は滞水状態にあり、ヨシ等の植物が生い茂っていたものと推測される。

６．海塚遺跡

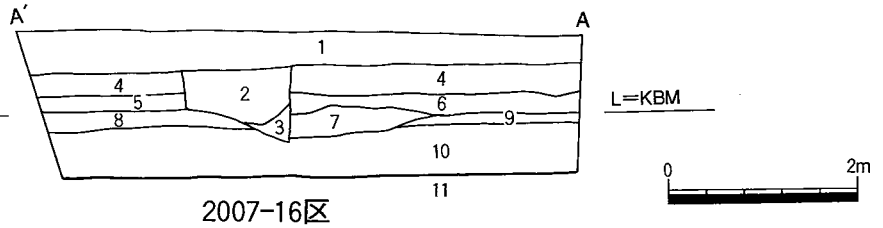
本遺跡は、近木川の右岸の中位段丘上、標高約 15mに位置する。周知の遺跡として、中世の集落跡と推定される。本市による平成９年度（1997 年）の調査では、奈良時代の土坑、溝を、中世の溝、鋤溝等を検出している。平成 10 年度（1998 年）の調査では、中世の溝４条等を検出している。これらの調査により少なくとも奈良時代より開発が行われ、中世から近世にかけての耕作に関連する遺構を検出している。

2007 - 17 区の調査（図 11・図版８）

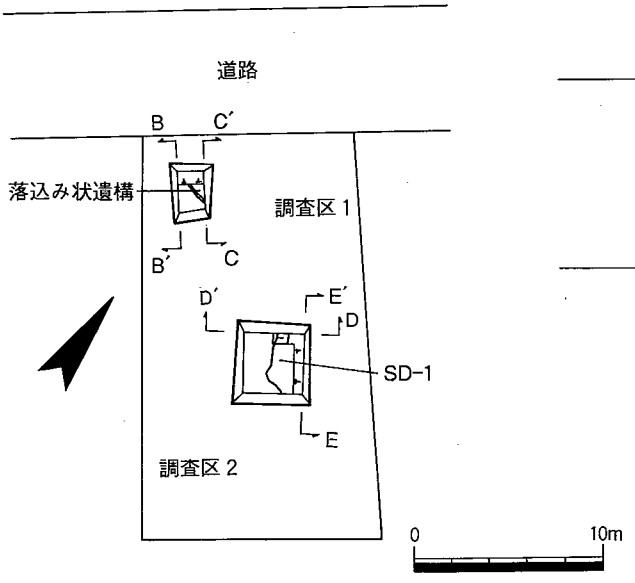
本調査は、海塚 210 - 3 において実施した。調査は、申請地内において調査区（3.45 ㎡）を設定して行った。

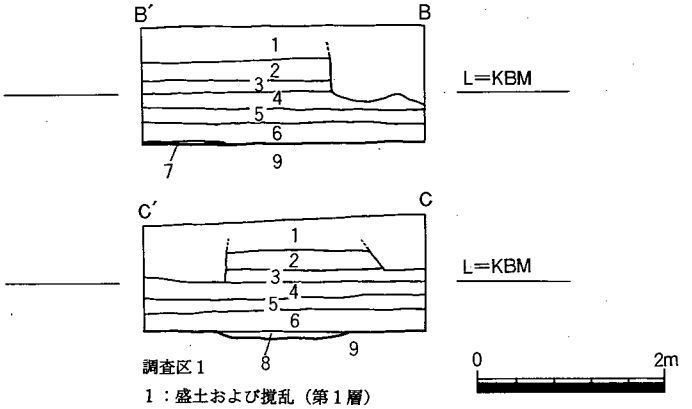


1：盛土1
2：撹乱（礫を多く含む）
3：撹乱（5Y5/2 灰黄褐色粘土）
4：盛土2（瓦を含む）
5：2.5Y5/1 黄灰色土混じり 2.5Y7/2 灰黄色土
6：2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土（2.5Y7/4 浅黄色小礫を含む）
7：2.5Y5/2 黄灰色土混じり 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質シルト
8：10YR6/1 褐灰色小砂礫混じり粗砂（流路2）
9：10YR6/2 灰黄褐色礫混じり砂質シルト（流路1）
10：5Y6/1 灰色礫混じり粗砂（流路1）
11：5Y6/3 オリーブ黄色砂礫（地山）

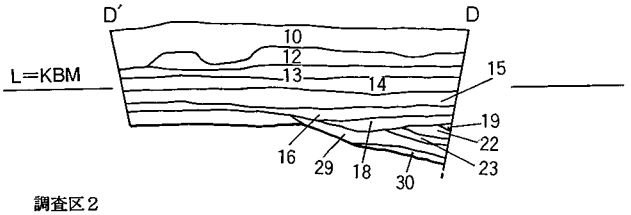


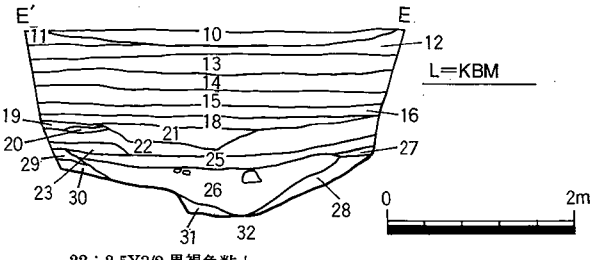
2007-16区





調査区1
1：盛土および撹乱（第1層）
2：10YR7/3 にぶい黄橙色土混じり 2.5Y6/1 黄灰色土（第2層）
3：2.5Y5/1 黄灰色細砂混じり土（第3層）
4：10YR6/1 褐灰色粘質土（第4層）
5：2.5Y6/3 にぶい黄色土混じり 2.5Y5/1 黄灰色粘質土（第5層）
6：10YR4/1 褐灰色砂礫混じり粘質土（第6層）
7：10YR3/1 黒褐色粘質土（第7層）
8：10YR3/1 黒褐色粘質シルト（落込み状遺構）
9：2.5Y5/4 黄褐色粘質シルト（第8層：地山）





調査区2
10：盛土および撹乱（第1層）
11：旧耕土（第1層）
12：10YR5/3 にぶい黄褐色細砂混じり土（第2層）
13：2.5Y5/3 黄褐色土（第3層）
14：2.5Y5/2 暗灰黄色砂混じり土（第4層）
15：10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土（第5層）
16：10YR4/2 灰黄褐色土（第5層）
17：10YR4/2 灰黄褐色粘土（第6層）
18：10YR4/2 灰黄褐色土（地山土ブロックが混入）
19：10YR5/6 黄褐色土（地山ブロッ
20：2.5Y4/2 暗灰黄色土
21：2.5Y4/2 暗灰黄色細砂混じり土
（SD-1 上層）

22：2.5Y3/2 黒褐色粘土
23：2.5Y3/2 黒褐色粘土
24：10YR2/2 黒褐色粘土
（SD-1 上層）

25：10YR4/1 褐灰色粘土
26：10YR3/2 黒褐色粘土
27：2.5Y4/2 暗灰黄色土
28：10YR4/2 灰黄褐色粘土混じり土
29：2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂混じり土
30：10YR3/3 暗褐色極細砂混じり土
31：2.5Y3/2 黒褐色細～粗砂
（SD-1 下層）

32：2.5Y6/6 明黄褐色シルト混じり土（第8層：地山）

2007-43区

図9　2007-16区・2007-43区

調査区の層序は、第１層が盛土、第２層は旧耕土、第３層は床土、第４層は灰黄褐色土、第５層は暗灰黄色細砂礫混じり粘質土、第６層は黄灰色小砂礫混じり粘質土、第７層はにぶい黄橙色粘土（地山）である。

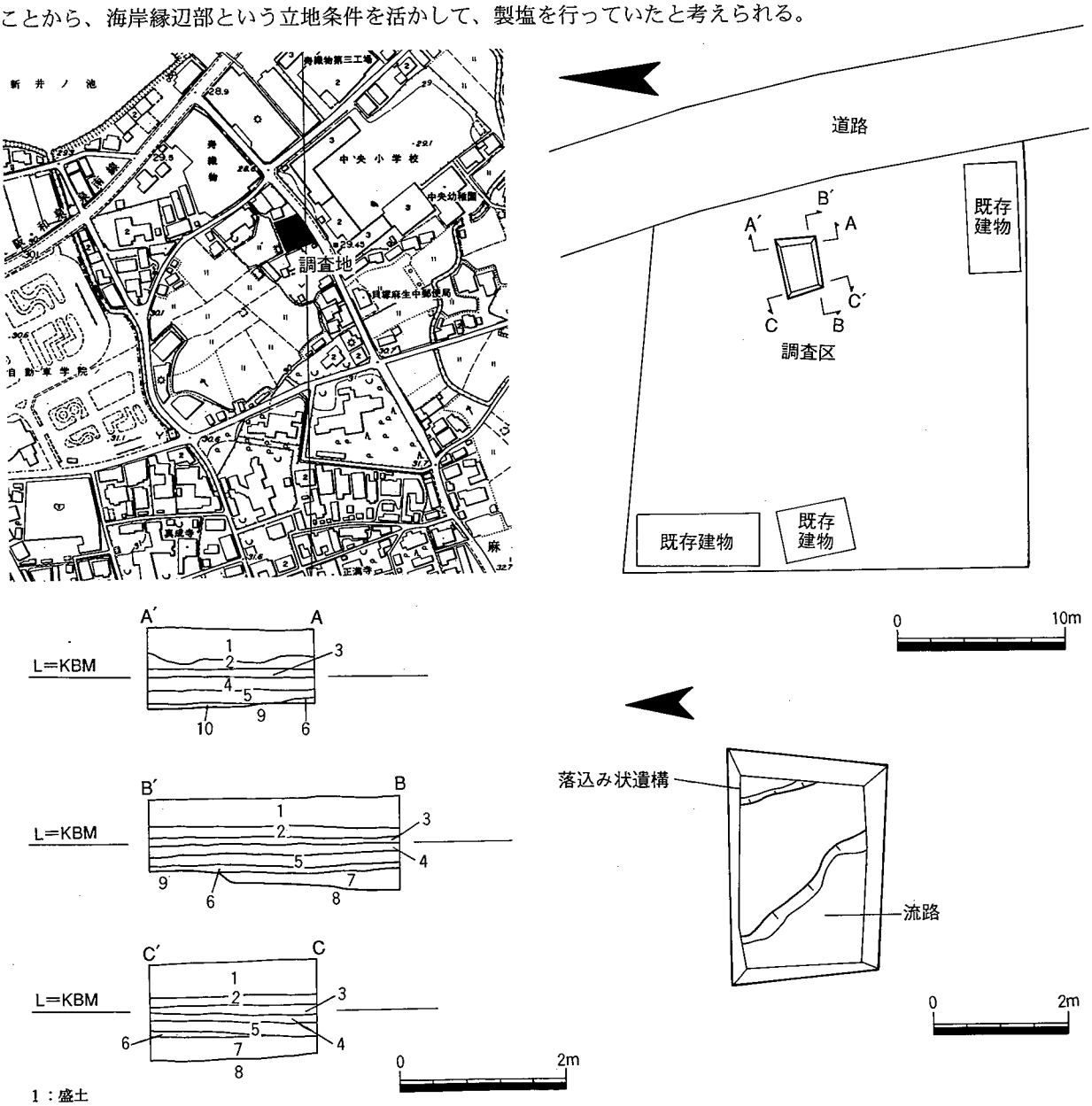
第４層から第６層は遺物包含層と考えられ、第５層、第６層より土師器、瓦器が出土している。

地山面において遺構検出を行い、東西方向の鋤溝３条を検出した。鋤溝は幅約 0.2m、深さ約 0.04mを測り、埋土は灰色粗砂混じり粘質土である。鋤溝より遺物は出土していない。

本申請地においては、地山面で検出した鋤溝、第５層・第６層の出土遺物より中世の耕地跡と考えられる。

７．脇浜遺跡

本遺跡は、標高２～３ｍの近木川右岸に位置する縄文時代から近世にかけての散布地、生産遺跡である。本遺跡からは蛸壺等の多数の漁撈具が出土しており、漁業に携わる集落跡と推定している。また製塩土器が出土することから、海岸縁辺部という立地条件を活かして、製塩を行っていたと考えられる。



1：盛土
2：旧耕土
3：10YR7/3 にぶい黄橙色土
4：10YR6/1 褐灰色粘質土
5：2.5Y5/1 黄灰色小礫混じり粘質土
6：2.5Y6/2 灰黄色粘質土
7：10YR5/1 褐灰色砂混じり粘土（流路）
8：7.5Y6/1 灰色砂礫（地山）
9：2.5Y7/4 浅黄色砂礫（地山）
10：10YR5/2 灰黄褐色粘質土（落込み状遺構）

図10　2007-31区

（財）大阪府文化財センターによる昭和 61 年度（1986 年）の調査では、出土遺物により少なくとも縄文時代晩期までさかのぼることが確認されている。さらに古墳時代の掘立柱建物跡や中世のピットを検出している。平成２年度（1991 年）の調査では、古墳時代後期の竪穴住居跡が２棟検出されている。

2007 - 33 区の調査（図 12・図版９）

本調査は、脇浜１ - 251 - １の一部において実施した。調査は、申請地内において調査区（16 ㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が盛土および撹乱、２層は旧耕土、３層は浅黄色礫混じり粘土（地山）である。

地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

申請地は、調査区壁面の断面観察等により開発による削平を受けているものと考えられる。

2007 - 42 区の調査（図 12・図版９）

本調査は、脇浜 2 - 405 - １において実施した。調査は、申請地内において調査区（６㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が現耕土、２層はにぶい橙色土（床土）、３層はにぶい黄橙色土、４層は灰黄色土、５層は灰黄褐色土、６層は褐灰色砂混じり土、７層は褐灰色土、８層は黄褐色砂礫（地山）である。

３層～６層より土師器、瓦器が出土しており、中世の遺物包含層と考えられる。

地山面において遺構検出を行い、東西方向の鋤溝を検出した。鋤溝の埋土は褐灰色土（７層）であり、遺物は出土していない。

申請地においては、調査区壁面の土層観察や地山面で鋤溝を検出したことにより、中世の耕地跡であったと考えられる。

８．石才南遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上に位置し、周知の遺跡として弥生時代から古墳時代の集落跡と推定している。本遺跡の周辺には、縄文時代、平安時代～中世の散布地である石才遺跡、弥生時代、古墳時代、中世の集落

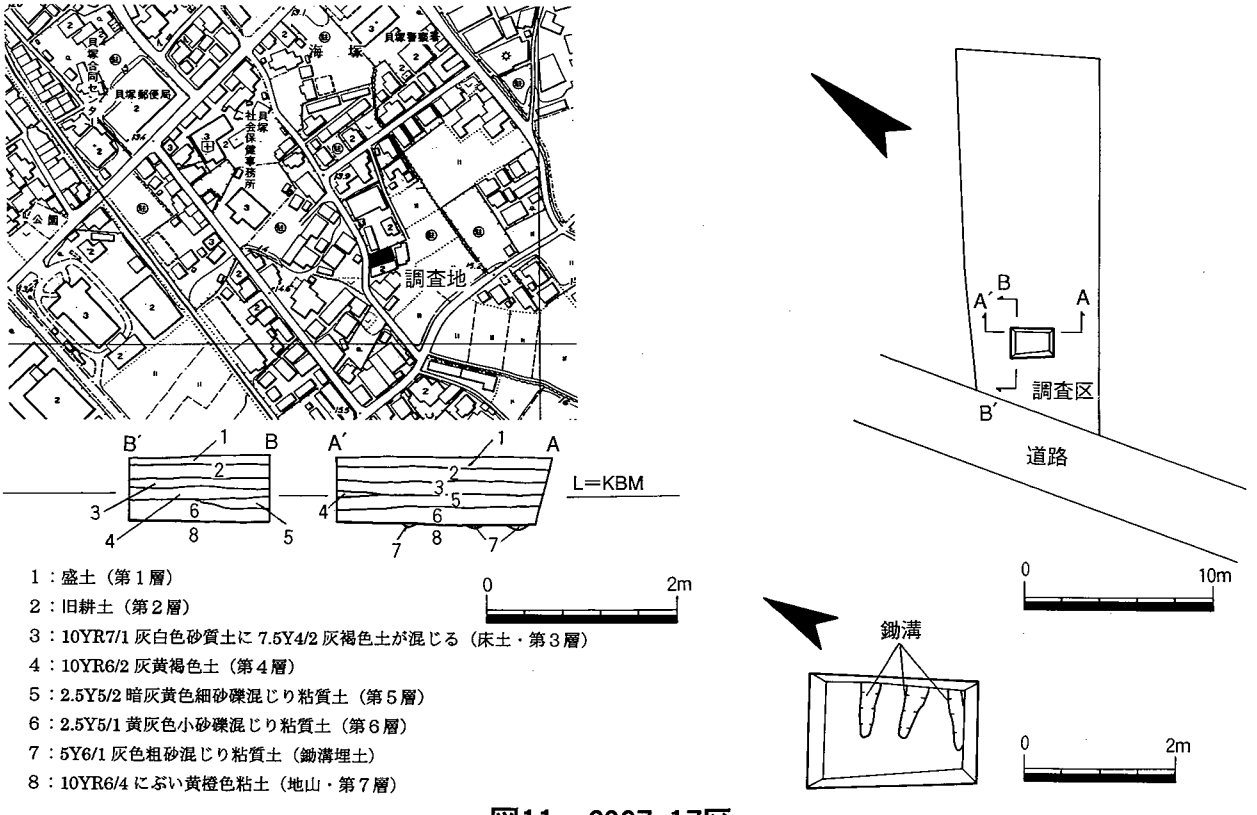
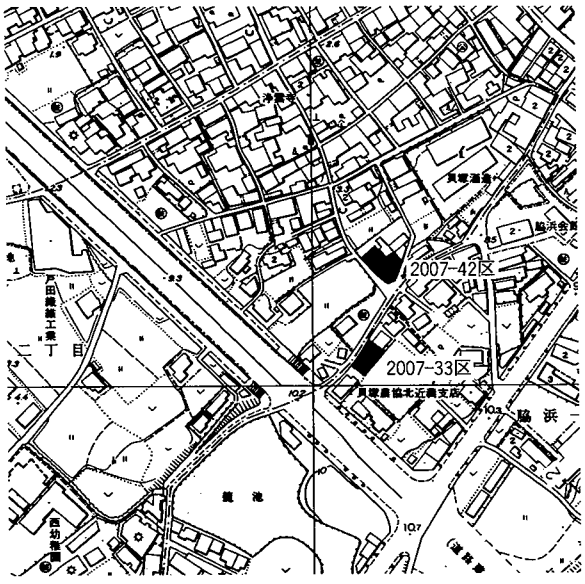
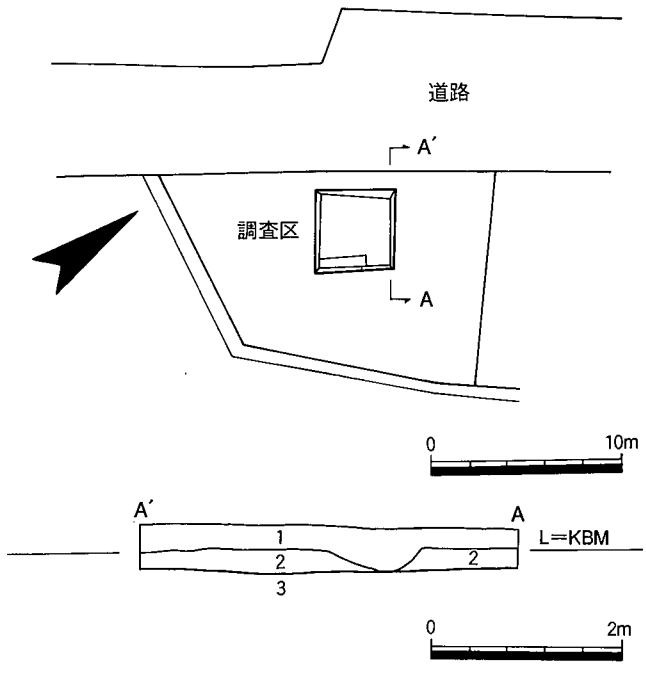


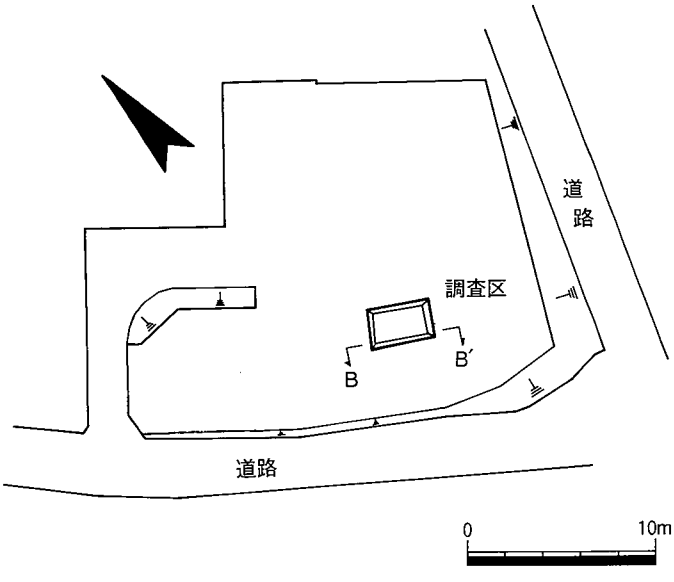
図11　2007-17区

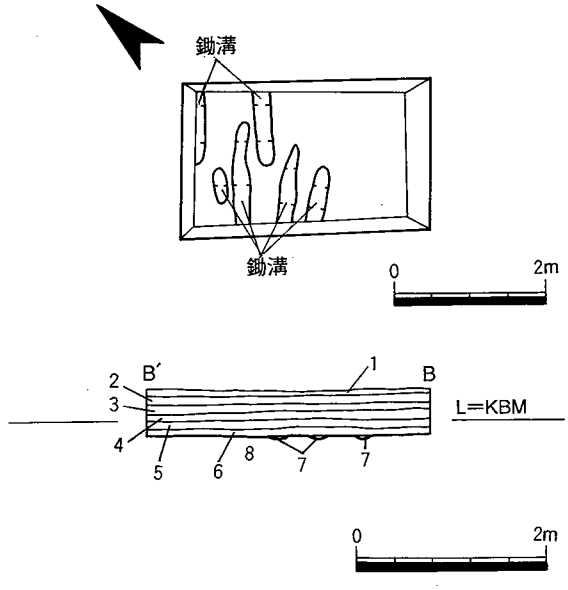




1：盛土および撹乱
2：旧耕土
3：2.5Y7/4 浅黄色礫混じり粘土（地山）

2007-33区





1：現耕土
2：7.5YR6/4 にぶい橙色土
3：10YR7/3 にぶい黄橙色土
4：2.5Y6/2 灰黄色土
5：10YR6/2 灰黄褐色土
6：10YR6/1 褐灰色砂混じり土
7：10YR6/1 褐灰色土（鋤溝埋土）
8：10YR5/6 黄褐色砂礫（地山）

2007-42区

図12　2007-33区・2007-42区

跡である新井ノ池遺跡、奈良時代～平安時代の散布地である清児遺跡が存在する。本遺跡は、昭和 63 年（1988 年）の（財）大阪府文化財センターの調査において古墳時代中期以後の竪穴住居が３棟、掘立柱建物が９棟検出されている。

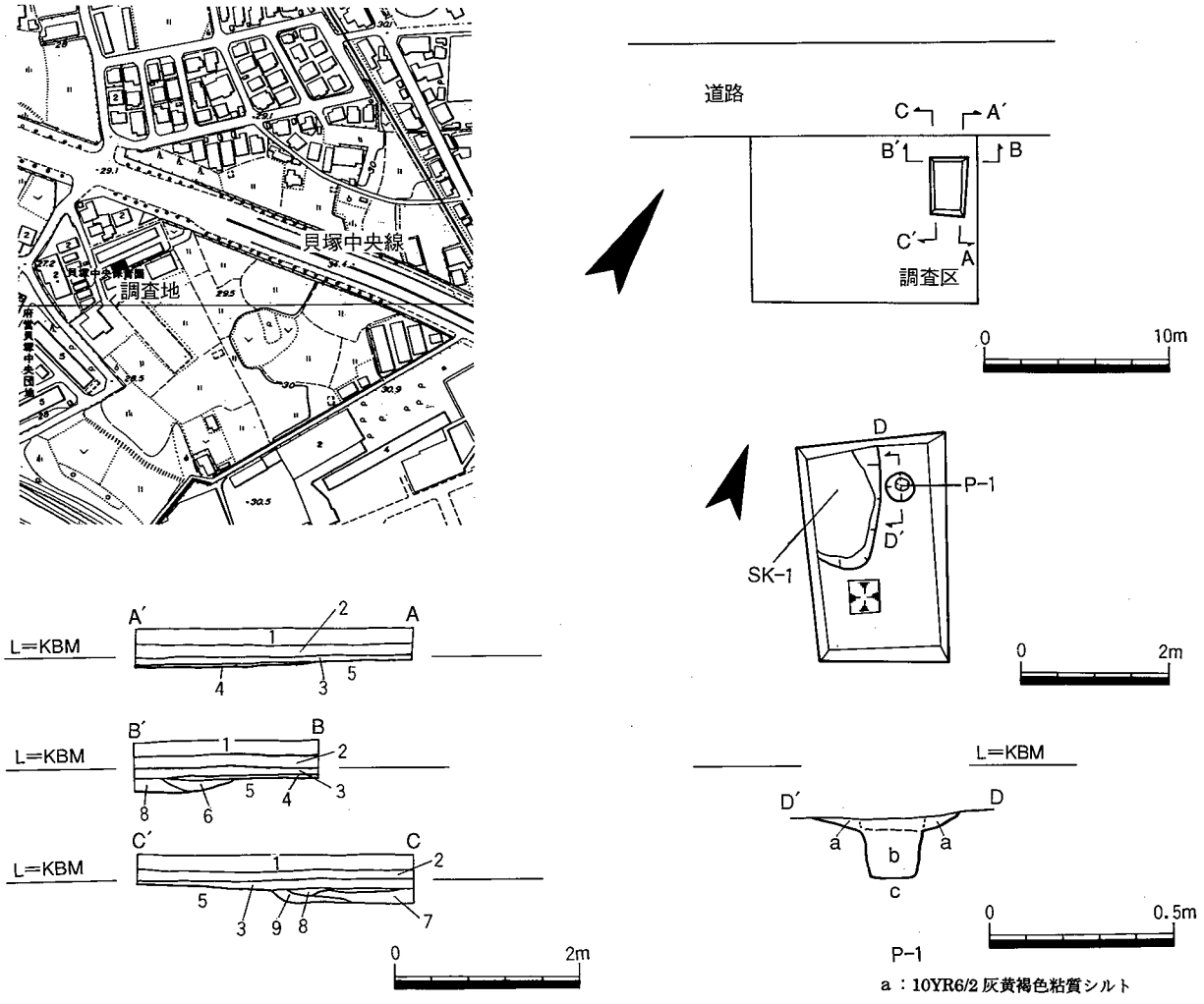
2006 - 62 区の調査（図 13・図版８）

本調査は、麻生中 452 - 10 において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（６㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が盛土、２層は旧耕土、３層は灰黄色土、４層は褐灰色土、５層は浅黄色粘質シルト（地山）、６層～９層はＳＫ－１の埋土、10 層はにぶい黄橙色礫混じり砂質土（地山）である。

３層・４層は遺物包含層と考えられ、４層より土師器片が出土している。３層・４層の時期については、申請地北側の調査において３層・４層と対応する層を確認しており、この調査事例により３層は中世、４層は古墳時代と考えられる。

地山面において遺構検出を行い、土坑（ＳＫ－１）１基とピット（Ｐ－１）１基を検出した。ＳＫ－１の規模は、検出長 1.3m以上、深さ 0.15m、埋土は灰黄褐色粘質シルトを主体とする。遺物は土師器片、サヌカイト片が出土



1：盛土
2：旧耕土
3：2.5Y6/2 灰黄色土
4：10YR4/1 褐灰色土
5：2.5Y7/4 浅黄色粘質シルト（地山）
6：10YR5/2 灰黄褐色粘質土
7：10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト
8：10YR7/1 灰白色砂質シルト
9：2.5Y6/1 黄灰色シルト
（SK-1）
10：10YR7/3 にぶい黄橙色礫混じり砂質土

a：10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト
b：10YR4/1 褐灰色粘質土
c：2.5Y7/4 浅黄色粘質シルト（地山）

図13　2006-62区

している。P－1は、直径0.4m、杭痕径0.16m、深さ0.15m、埋土は褐灰色粘質土である。遺物は土師器片、サヌカイト片が出土している。

これらの遺構の性格については、SK－1は不明であるが、P－1は木杭の痕跡と考えられる。時期については、出土遺物が細片のため正確な時期は不明であるが、本申請地を含む宅地造成に伴う調査では、弥生時代から古墳時代の遺構を検出している。

9．地蔵堂遺跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高22～23mに位置し、その範囲は前方後円墳である地蔵堂丸山古墳、平安時代の寺院跡である地蔵堂廃寺を包括する。地蔵堂丸山古墳は、本市による平成14年度（2002年）の調査により墳丘に伴う葺石及び埴輪列を検出した。出土した円筒埴輪から古墳は4世紀末に築造されたと考えられる。本遺跡では、中・近世の耕地跡、中世の素掘り井戸等を検出している。

2006－73区の調査（図14・図版10）

本調査は、堤51－9において実施した。調査は、申請地の建物部分および浄化槽部分の2箇所（計5.75㎡）を設定して行った。

調査区1の層序は、1層が盛土、2層は撹乱であり、コンクリートブロックを多く含む。調査区1については湧水が著しいため、地山面を確認することはできなかった。

調査区2の層序は、1層が盛土、3層は撹乱であり、建築廃材および炭化物が多く混在する。4層は青灰色土～黄灰色土、5層は灰オリーブ色土～にぶい黄色土、6層は灰色粘質土～褐灰色粘質土であり、これらの層は撹乱等の影響により部分的に変色している。7層は灰白色粘土（地山）である。4層～6層は遺物包含層と考えられ、5・6層より瓦器が出土している。地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

申請地については、宅地造成に伴う発掘調査において中世～近世の遺物包含層、流路堆積層を検出しており、流路埋没後は耕地として利用されていたと考えられる。今回の調査では、流路堆積層は確認できなかったが、中世の遺物包含層を検出した。

申請地は工場の跡地であり、調査区1は大きく撹乱を受けていたが、撹乱を受けていない場所（調査区2）については、中世から近世にかけての遺物包含層が存在している。

2007－14区の調査（図14・図版10）

本調査は、堤51－10において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（3.75㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土、2層は灰黄褐色土、3層は黄灰色粘質土、4層は褐灰色粘質シルト、5層は黒褐色粘質シルト～粘土、6層は灰白色細砂混じり粘土、7層は灰色粗砂、8層は浅黄色砂礫（地山）である。

2層～4層は遺物包含層と考えられ、4層より瓦器が出土している。5層は土壌化層であり、遺物は出土していない。6層・7層は流路堆積層と考えられ、湧水が著しい。6層・7層より遺物は出土していないため、埋没時期等については不明である。5層上面で遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

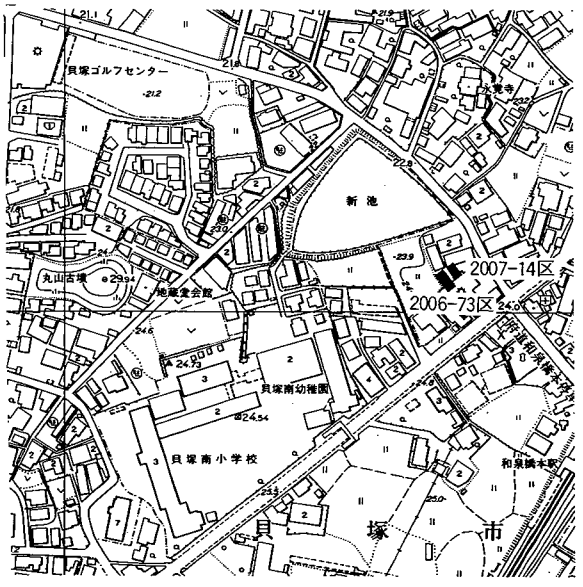
本申請地を含む平成17年度の宅地造成に伴う調査により、中世の遺物包含層と流路を検出している。

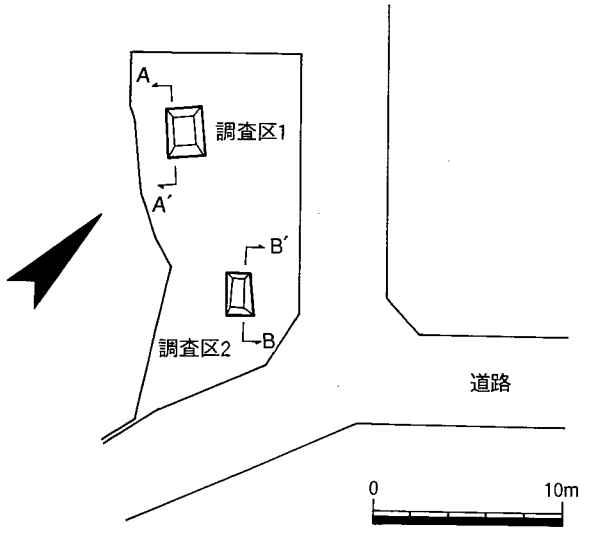
申請地については、流路埋没後は土壌化層が認められること、申請地の北西側に新池が存在すること、周辺の小字名等により申請地周辺は湿地状態であったと推測される。その後、中世以降に耕地として土地利用されたものと考えられる。

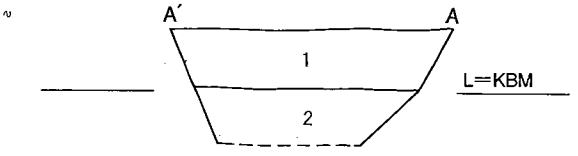
10．沢城跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高8～11mに位置する。中世・戦国時代の集落跡・城跡と推定されている。沢城は紀州根来勢により畠中城・積善寺城とともに近木川流域に築かれた城である。天正13年(1585年)

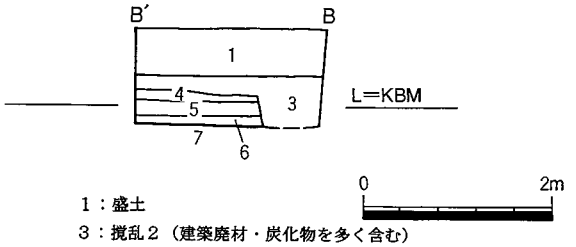
の豊臣秀吉による紀州攻めの際には、宝蔵院、田中加助ら紀州の一向宗と雑賀衆約 6000 人が籠城したとされる。沢城跡では、中世の掘立柱建物跡、耕地跡、溝等を検出している。本市による平成 13 年度（2001 年）の調査では、溝を検出し、溝内より大量の瓦が出土していることから、沢城に関連する溝と考えられる。





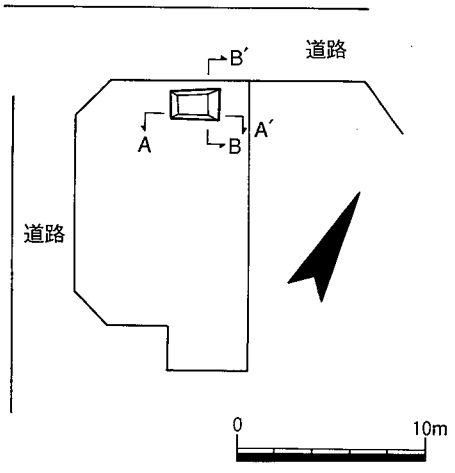


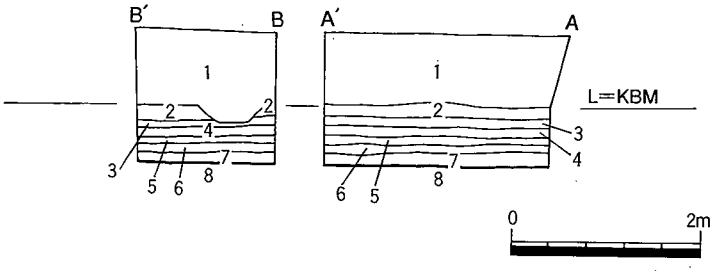
1：盛土
2：撹乱 1（コンクリートブロックを多く含む）



1：盛土
3：撹乱 2（建築廃材・炭化物を多く含む）
4：5BG5/1 青灰色土～2.5Y6/1 黄灰色土
5：10YR5/2 灰オリーブ色土～2.5Y6/3 にぶい黄色土
6：10YR5/1 灰色粘質土～10YR5/1 褐灰色粘質土
7：5Y7/2 灰白色粘土（地山）

2006-73区





1：盛土
2：10YR6/2 灰黄褐色土
3：2.5Y6/1 黄灰色粘質土
4：10YR6/1 褐灰色粘質シルト
5：10YR3/1 黒褐色粘質シルト～粘土
6：10YR7/1 灰白色細砂混じり粘土 ―（流路）
7：5Y6/1 灰色粗砂 ―（流路）
8：5Y7/3 浅黄色砂礫（地山）

2007-14区

図14　2006-73区・2007-14区

2006－68区の調査（図15・図版11）

本調査は、沢678－8、678－3の一部、678－5の一部、678－7の一部において実施した。調査は、申請地内において調査区（7.5㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、1層・2層が盛土、3層は浅黄色砂礫（地山）である。地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

申請地においては土地の削平を受けており、遺物包含層および遺構は失われたものと考えられる。

平成17年度の調査では、本申請地の西方向50m地点において中世の柱穴2基検出していることから中世の建物等が存在していたと考えられる。本申請地においても遺物包含層および遺構が存在していた可能性がある。

11. 窪田遺跡・窪田廃寺

本遺跡は、弥生時代から中世にかけての遺物散布地ならびに寺院跡である。昭和59年度（1985年）に実施した発掘調査では、溝2条、土坑状遺構2基、ピット3基、落込み状遺構を検出している。遺物は、溝より瓦器、土師器、青磁、陶器等が出土、土坑状遺構より瓦器、土師器、青磁等が出土している。これらの遺構は13世紀後半から14世紀のものと考えられる。本遺跡の西に澱池遺跡があり、奈良時代から中世にかけての集落跡である。昭和59年度（1985年）に実施した発掘調査では、土坑状遺構1基、ピット3基を検出している。これらの遺構は14世紀後半ごろと推測される。

2007－32区の調査（図16・図版11）

本調査は、王子917－6において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（4.5㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、1層・2層が盛土、3層は明黄褐色粘質土（地山）である。地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

本申請地を含む宅地造成時に試掘調査を行い、中世の遺物包含層と耕地に伴う溝を検出している。周辺の地形は、本申請地より南方向へ傾斜しており、地形的に高い部分（本申請地）は土地の削平を受けている。

本申請地は、工場の跡地であり、地山面においてコンクリート基礎を確認していることにより工場の造成により削平を受けたものと考えられる。

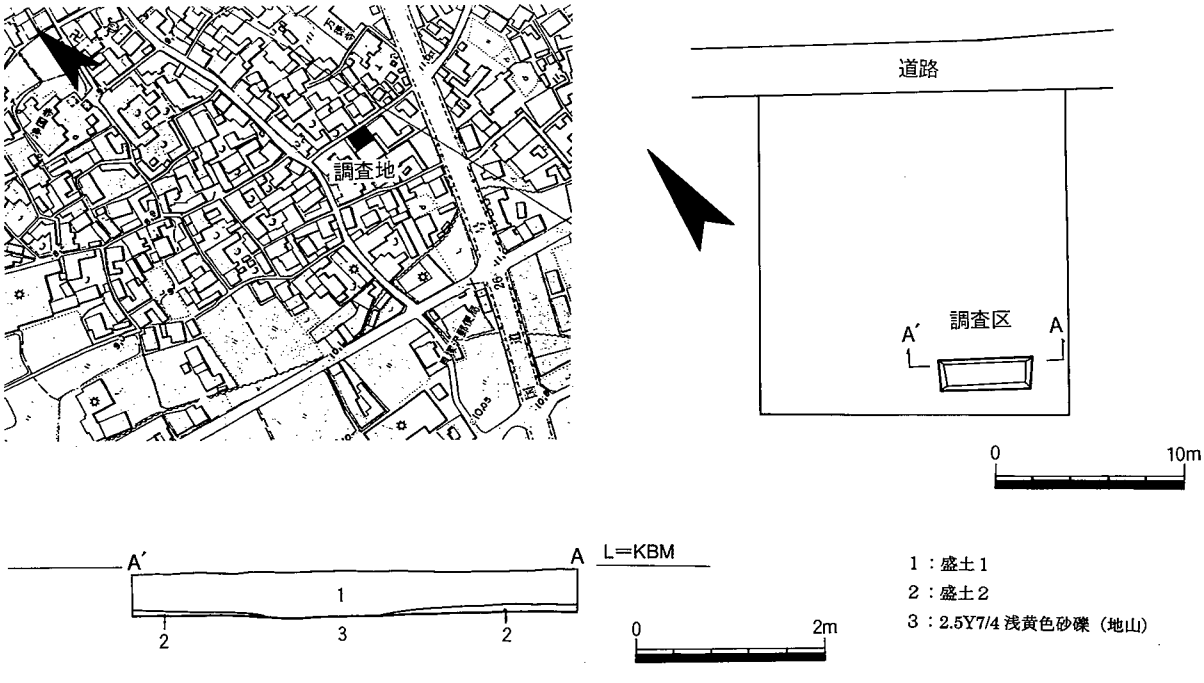


図15　2006-68区

12. 堤三宅遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約 18mに立地する。周知の遺跡として、中世の集落跡と推定している。本市による平成 16 年度（2004 年）の確認調査においては、中世の遺物包含層を確認しており、土師器、須恵器が出土している。本遺跡の東側に位置する堤西浦遺跡より古代と中世の遺物包含層を確認している。

2007 - 37 区の調査（図 17・図版 12）

本調査は、堤 279 - 4、279 - 5 において実施した。調査は、申請地内において３箇所の調査区（11.5 ㎡）を設定して行った。

調査区１の層序は、１層が盛土および撹乱、２層は旧耕土、５層は明黄褐色粘土（地山）であり、土地の削平を受けており、遺構は検出できなかった。

調査区２の層序は、１層が盛土および撹乱、２層は旧耕土、３層は灰黄色土、４層は明黄褐色粘土（地山）である。３層は遺物包含層と考えられるが、遺物は出土していない。地山面の遺構検出は、撹乱等により実施できなかった。

調査区３の層序は、１層が盛土・撹乱、２層は旧耕土、６層はにぶい黄橙色土、７層は褐灰色礫土、８層はにぶい黄色土である。地山面は撹乱等により確認することができなかった。

６層は調査区２において検出した３層に対応するものと考えられるが、遺物は出土していない。７層より中世の遺物が出土していることから、３層と６層は中世以降の耕土層と推測される。

７層は３㎝～10 ㎝大の礫を主体とすることから、石垣状もしくは礫を混入させた土砂を積み上げたものと考えられ、堆積状況により崩落した土砂が堆積している可能性がある。７層より土師器、瓦器、須恵器の小片が出土しており、中世以降に設けられたものと推測される。

８層より遺物は出土していないが、堆積状況により中世以降に堆積したものと考えられる。

申請地は、中世以降の耕地跡と考えられ、７層は耕地の斜面等を補強した石垣状遺構と考えられる。

13. 王子西遺跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高 22～23mに位置する。周知の遺跡として奈良～平安時代にかけての集落跡と推定している。本遺跡の東側に位置する王子遺跡においては、本市による昭和 60 年（1985 年）の

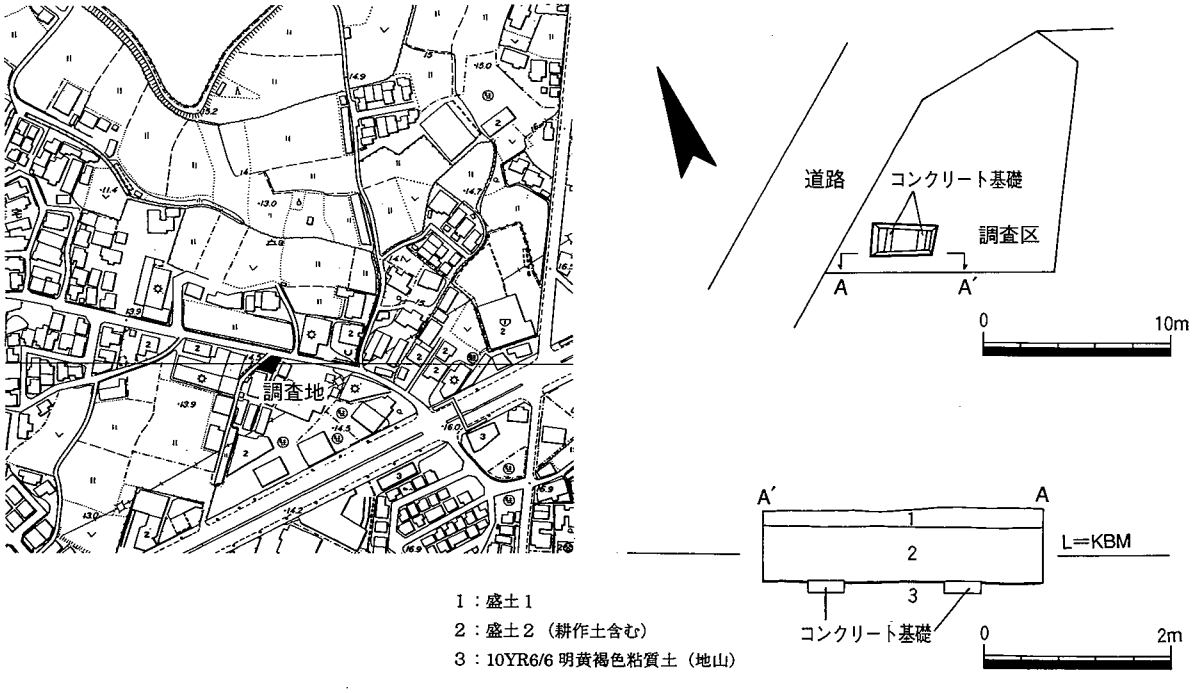


図16　2007-32区

発掘調査で掘立柱建物、溝等の鎌倉時代の集落跡を検出している。

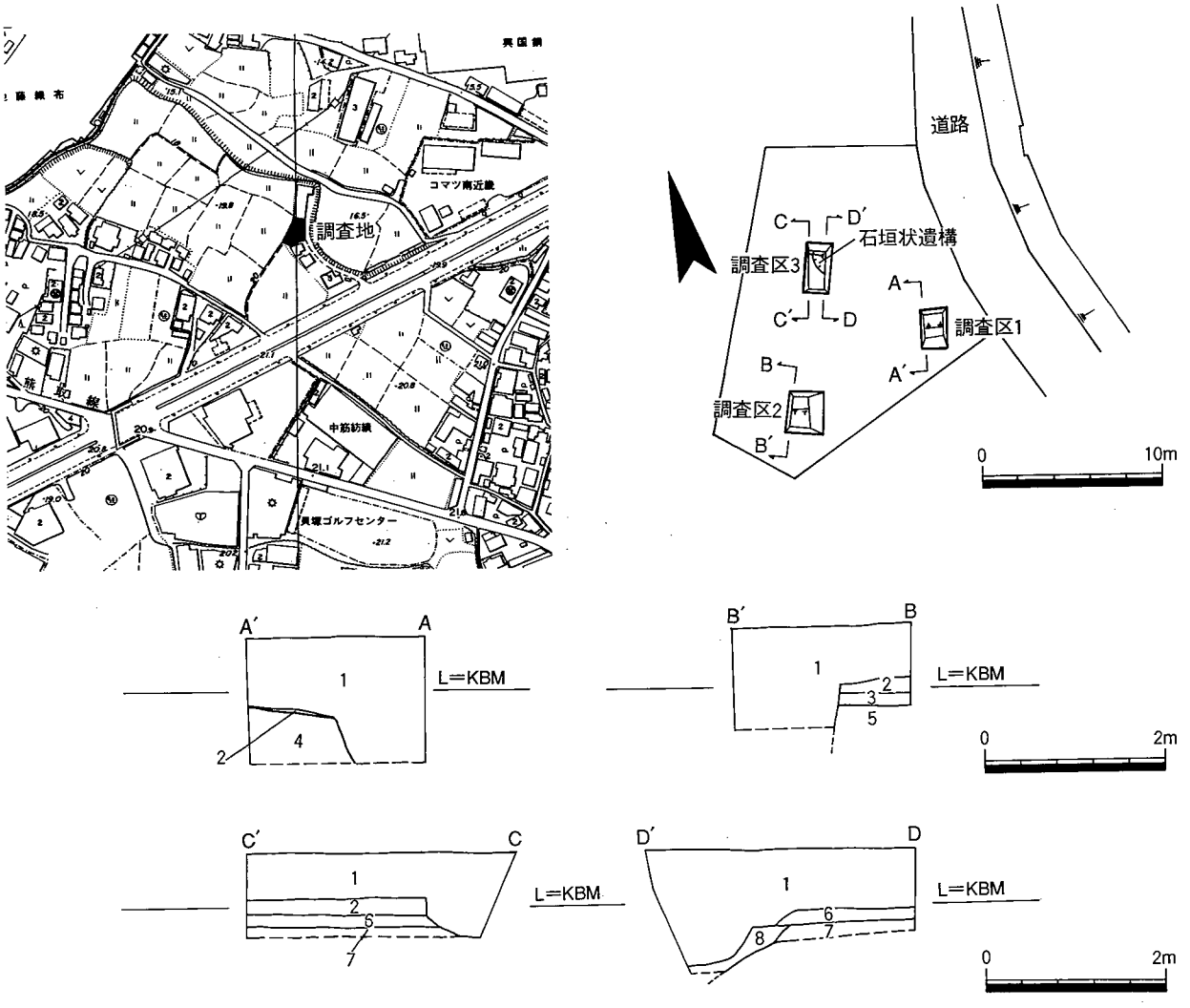
2007 - 35 区の調査（図 18・図版 12）

本調査は、王子 37 - 3 において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（3.75 ㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が盛土および撹乱、２層は旧耕土、３層は灰黄褐色土、４層は灰黄色細砂混じり土、５層は青灰色砂混じり粘質シルト、６層は黄褐色粘土（地山）である。

３層～５層は遺物包含層と考えられ、４層・５層より土師器、瓦器、土師質羽釜、瓦質甕の各小片が出土している。これらの層は中世後半頃の遺物包含層と考えられる。４層の一部と５層はグライ化していた。

地山面において遺構検出を行い、南北方向の鋤溝を検出した。鋤溝の埋土は青灰色砂混じり土であり、遺物は出土していない。本調査区において出土遺物や鋤溝を検出したことにより、申請地は中世後半頃の耕地跡であったと推測される。



調査区１・２
１：盛土・撹乱
２：旧耕土
３：2.5Y6/2 灰黄色土
４：10YR6/6 明黄褐色粘土（地山）
５：2.5Y6/4 にぶい黄色土（地山）

調査区３
１：盛土・撹乱
２：旧耕土
６：10YR6/4 にぶい黄橙色土
７：10YR6/1 褐灰色礫土
８：2.5Y6/3 にぶい黄色土

図17　2007-37区

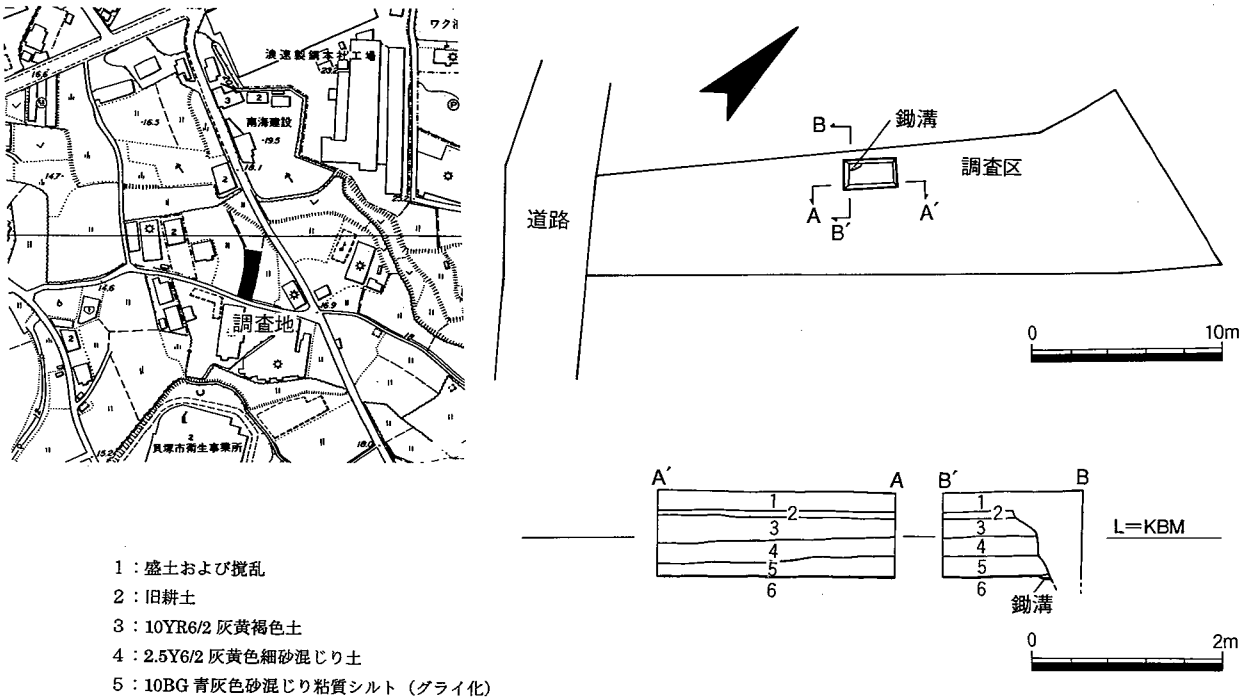


図18　2007-35区

第３章　　平成３年・平成４年の調査

国庫補助事業による平成３年（1991 年）・平成４年（1992 年）の発掘調査について、概要報告書より一部抜け落ちた調査分があり、改めてここに一覧と位置図を掲載する。

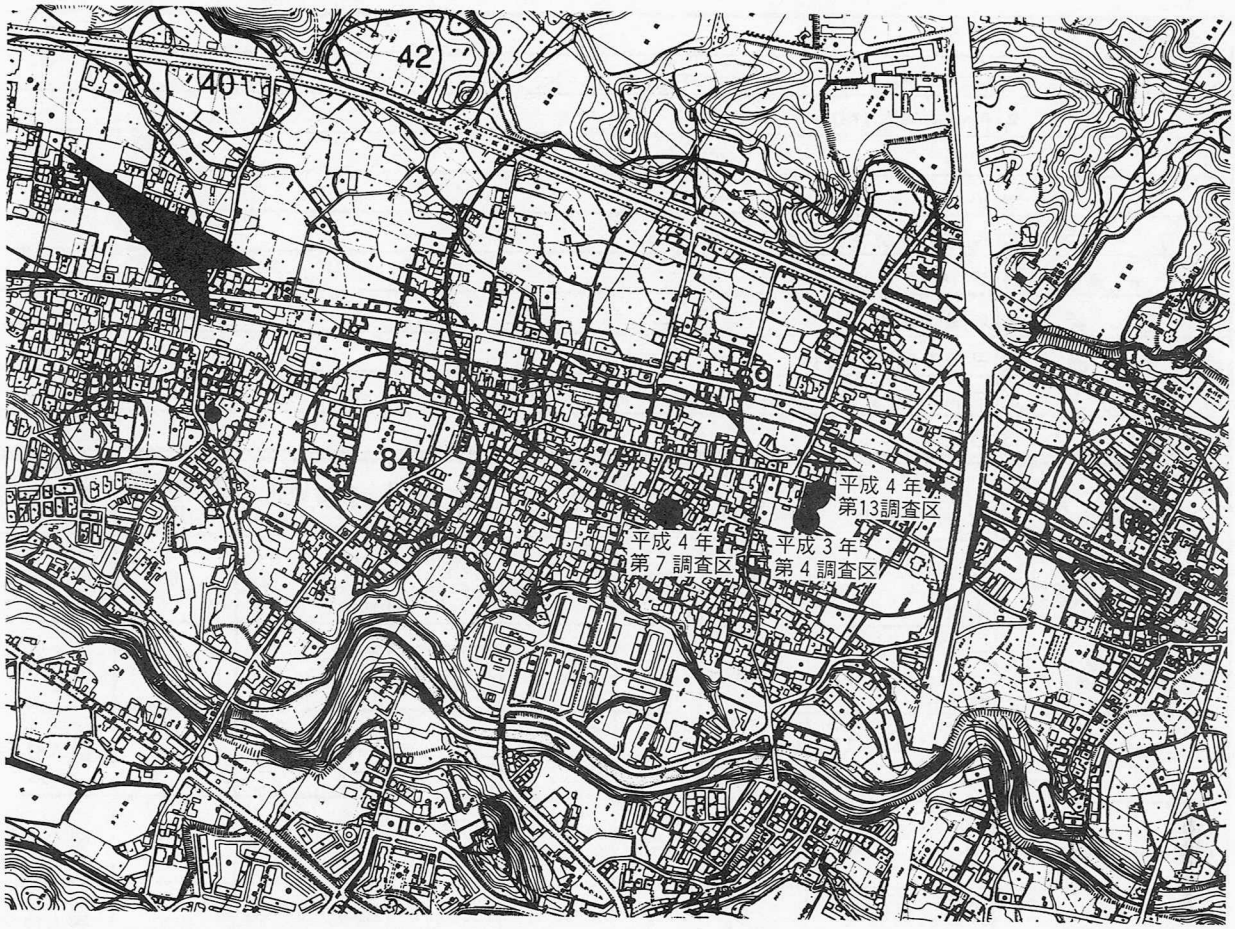
	遺跡名	調査番号	遺跡略号	開発地	報告済(○)
	(平成3年度)				
1	福田遺跡	第1調査区	FD	小瀬29-3	
2	貝塚寺内町遺跡	第2調査区	JN	北町207	
3	名越遺跡	第3調査区	NG	清児354-1	
4	三ヶ山西遺跡	第4調査区	MYN	三ツ松1299	
5	福田遺跡	第5調査区	FD	小瀬29-6	
6	脇浜遺跡	第6調査区	WH	脇浜1-233-1	
7	王子西遺跡	第7調査区	OGN	王子353-1	
8	木積観音寺跡	第8調査区	KKD	木積806-2	
	(平成4年度)				
9	福田遺跡	第1調査区	FD	福田46外	
10	沢城跡	第2調査区	SJ	沢656-1	
11	王子西遺跡	第3調査区	OGN	王子34-1外	
12	清児遺跡	第4調査区	SG	麻生中253-2外	
13	半田遺跡	第5調査区	HD	麻生中944-2外	
14	石才南遺跡	第6調査区	ISS	麻生中459-2	○
15	三ヶ山西遺跡	第7調査区	MYN	三ツ松1289	
16	加治・神前・畠中遺跡	第8調査区	KKH	畠中2-119外	
17	貝塚寺内町遺跡	第9調査区	JN	北町38-5	○
18	土生遺跡	第10調査区	HB	久保508	○
19	加治・神前・畠中遺跡	第11調査区	KKH	加神2-165-1外	
20	加治・神前・畠中遺跡	第12調査区	KKH	畠中1-232-1	
21	三ヶ山西遺跡	第13調査区	MYN	三ツ松1466-1	

表2　平成3年・平成4年国庫補助事業一覧

図19　調査地位置図（平成3年・4年）

図20　調査地位置図（平成3年・4年）

図21　調査地位置図（平成3年・4年）



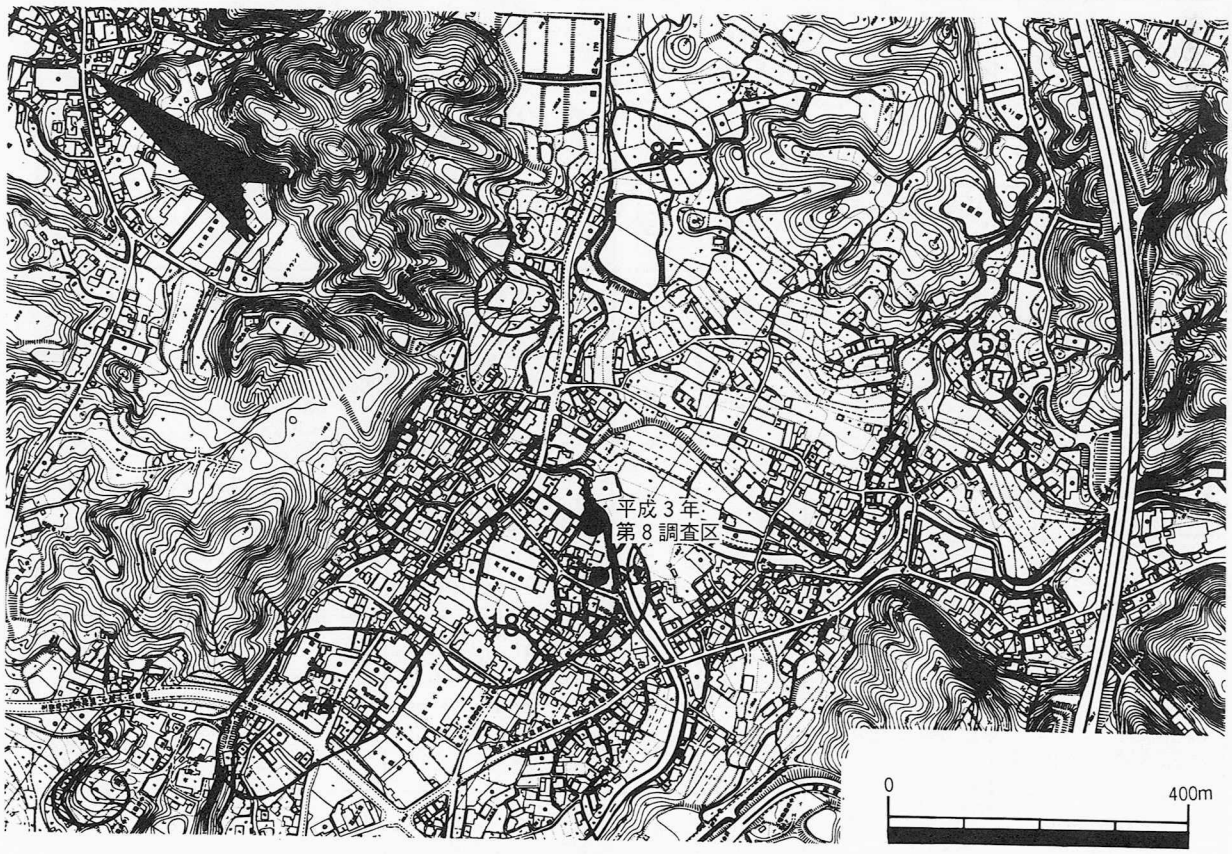


図22　調査地位置図（平成3年・4年）

報告書抄録	
ふりがな	かいづかしいせきぐんはっくつちょうさがいよう
書名	貝塚市遺跡群発掘調査概要
副書名	
巻次	30
シリーズ名	貝塚市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 76 集
編著者名	木嶋崇晴
編集機関	貝塚市教育委員会
所在地	〒597-8585 大阪府貝塚市畠中1-17-1 TEL072-423-2151
発行年月日	西暦2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 みなみちょう 南町	27208	22	34度26分 47秒	135度21 分13秒	2007 0116	6	個人住宅
いしざいみなみいせき 石才南遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	70	34度25分 43秒	135度22 分0秒	2007 0118	6	個人住宅
さわじょうあと 沢城跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 さわ 沢	27208	28	34度26分 5秒	135度20 分38秒	2007 0130	7.5	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 はたけなか 畠中	27208	23	34度26分 20秒	135度21 分20秒	2007 0213	4.5	個人住宅
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 つつみ 堤	27208	72	34度25分 42秒	135度21 分28秒	2007 0226	5.75	個人住宅
こせおおみちばたいせき 小瀬大道端遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 こせ 小瀬	27208	116	34度27分 7秒	135度22 分2秒	2007 0612～0613	4.25	個人住宅
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 つつみ 堤	27208	72	34度25分 43秒	135度21 分29秒	2007 0719～0720	3.75	個人住宅
こせごしょやまいせき 小瀬五所山遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 くぼ 久保	27208	58	34分26分 53秒	135度22 分24秒	2007 0727	6	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 かしん 加神	27208	23	34度26分 20秒	135度21 分4秒	2007 0730～0731	12	個人住宅
うみづかいせき 海塚遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 うみづか 海塚	27208	110	34度26分 32秒	135度21 分34秒	2007 0808～0809	3.45	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 かしん 加神	27208	23	34度26分 21秒	135度21 分11秒	2007 0822～0823	6	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 きたまち 北町	27208	22	34度25分 0秒	135度22 分16秒	2007 0904～0905	5.1	個人住宅
にいのいけいせき 新井ノ池遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	30	34度25分 54秒	135度21 分43秒	2007 1015～1016	6	個人住宅
くぼたいせき・くぼたはいじ 窪田遺跡・窪田廃寺	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 おうじ 王子	27208	51	34度25分 42秒	135度20 分47秒	2007 1017	4.5	個人住宅
わきはまいせき 脇浜遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 わきはま 脇浜	27208	66	34度26分 30秒	135度21 分0秒	2007 1022	16	個人住宅

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	遺跡番号	北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
おうじにしいせき 王子西遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 おうじ 王子	27208	79	34度25分 25秒	135度21 分7秒	2007 1024	3.75	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 かしん 加神	27208	23	34度25分 22秒	135度21 分11秒	2007 1029～1030	3.75	個人住宅
つつみみやけいせき 堤三宅遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 つつみ 堤	27208	88	34度25分 55秒	135度21 分18秒	2007 1101～1102	11.5	個人住宅
わきはまいせき 脇浜遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 わきはま 脇浜	27208	66	34度26分 33 秒	135度21 分1秒	2007 1128～1129	6	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 かしん 加神	27208	23	34度26分 22秒	135度21 分13秒	2007 1206～1207	20	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世		瓦、陶磁器	
いしざいみなみいせき 石才南遺跡	集落跡	古墳時代、中世	土坑、ピット	土師器、サヌカイト	
さわじょうあと 沢城跡	城跡、集落跡				
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡	中世		土師器	
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡	中世		瓦器	
こせおおみちばたいせき 小瀬大道端遺跡	集落跡	中世	鋤溝	土師器	
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡	中世		瓦器	
こせごしょやまいせき 小瀬五所山遺跡	集落跡				
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡	弥生時代		弥生土器	
うみづかいせき 海塚遺跡	集落跡	中世	鋤溝	土師器、瓦器	
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡	中世		土師器、瓦器、須恵器、白磁	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	溝	陶磁器、瓦	
にいのいけいせき 新井ノ池遺跡	集落跡	中世	流路、落込み状遺構	土師器、瓦器	
くぼたいせき・くぼたはいじ 窪田遺跡・窪田廃寺	散布地、寺院跡				
わきはまいせき 脇浜遺跡	散布地、生産遺跡				
おうじにしいせき 王子西遺跡	集落跡	中世	鋤溝	土師器、瓦器、瓦質甕、土師質羽釜	
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡				
つつみみやけいせき 堤三宅遺跡	集落跡	中世		土師器、瓦器、須恵器	
わきはまいせき 脇浜遺跡	散布地、生産遺跡	中世	鋤溝	土師器、瓦器	
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡	弥生時代～古墳時代、中世	落込み状遺構、土坑、鋤溝	弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、瓦	

平成3年の調査

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ふくだいせき 福田遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 こせ 小瀬	27208	82	34度26分26秒	135度21分52秒	1991 0722～0726	30	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 きたまち 北町	27208	22	34度27分4秒	135度21分26秒	1991 0821～0823	10	個人住宅
なごせいせき 名越遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 せちご 清児	27208	71	34度25分31秒	135度22分35秒	1991 0925～0928	10	個人住宅
みかやまにしいせき 三ヶ山西遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 みつまつ 三ツ松	27208	69	34度24分29秒	135度22分59秒	1991 1022～1025	25	個人住宅
ふくだいせき 福田遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 こせ 小瀬	27208	82	34度26分26秒	135度21分51秒	1991 1111～1113	15	個人住宅
わきはまいせき 脇浜遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 わきはま 脇浜	27208	66	34度26分32秒	135度21分3秒	1992 0107～0108	10	個人住宅
おうじにしいせき 王子西遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 おうじ 王子	27208	79	34度25分26秒	135度21分2秒	1992 0109～0110	30	個人住宅
こつみかんのんじあと 木積観音寺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 こつみ 木積	27208	18	34分23分51秒	135度23分42秒	1992 0309～0310	45	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ふくだいせき 福田遺跡	集落跡	中世		瓦器、土師器	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世		陶器、磁器	
なごせいせき 名越遺跡	散布地	中世		土師器、瓦器	
みかやまにしいせき 三ヶ山西遺跡	散布地	中世～近世		土師器、瓦器、磁器	
ふくだいせき 福田遺跡	集落跡	中世		土師器、瓦器	
わきはまいせき 脇浜遺跡	散布地、生産遺跡	中世		土師器、瓦器	
おうじにしいせき 王子西遺跡	集落跡	中世	溝3条、ピット2基、性格不明遺構1基	土師器、須恵器、瓦器	
こつみかんのんじあと 木積観音寺跡	寺院跡、集落跡	中世	土坑2基、柱穴1基、土壇状遺構1基	土師器、瓦器、瓦	

平成4年の調査

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ふくだいせき 福田遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 ふくだ 福田	27208	82	34度26分30秒	135度21分48秒	1992 0413～0414	17	個人住宅
さわじょうあと 沢城跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 さわ 沢	27208	28	34度26分7秒	135度20分44秒	1992 0416～0417	17	個人住宅

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
おうじにしいせき 王子西遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 おうじ 王子	27208	79	34度25分 25秒	135度21 分6秒	1992 0605～0606	12	個人住宅
せちごいせき 清児遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	36	34度25分 39秒	135度22 分29秒	1992 0608～0609	14	個人住宅
はんだいせき 半田遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	31	34度26分 10秒	135度22 分29秒	1992 0820～0824	14	個人住宅
いしざいみなみいせき 石才南遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	70	34度25分 43秒	135度21 分59秒	1992 0831	11	個人住宅
みかやまにしいせき 三ヶ山西遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 みつまつ 三ツ松	27208	69	34度24分 31秒	135度22 分58秒	1992 0902	11	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 はたけなか 畠中	27208	23	34度26分 8秒	135度21 分22秒	1992 0911	50	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 きたまち 北町	27208	22	34度27分 1秒	135度21 分28秒	1992 0916～0917	13	個人住宅
はぶいせき 土生遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 くぼ 久保	27208	61	34度26分 50秒	135度22 分36秒	1992 0921～0922	18	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 かしん 加神	27208	23	34度26分 19秒	135度21 分0秒	1992 1006	21	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 はたけなか 畠中	27208	23	34度26分 21秒	135度21 分22秒	1992 1105	42	個人住宅
みかやまにしいせき 三ヶ山西遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 みつまつ 三ツ松	27208	69	34度24分 25秒	135度23 分1秒	1992 1106	10	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ふくだいせき 福田遺跡	集落跡	中世	溝3条、土坑1基	瓦器、土師器	
さわじょうあと 沢城跡	城跡、集落跡	中世	溝3条、柱穴6基	瓦器、土師器	
おうじにしいせき 王子西遺跡	集落跡	中世	溝1条、土坑1基、落込み1基	瓦器、土師器	
せちごいせき 清児遺跡	散布地	中世	鋤溝5条、柱穴3基	土師器、瓦器	
はんだいせき 半田遺跡	集落跡				
いしざいみなみいせき 石才南遺跡	集落跡		土坑2基、柱穴9基	弥生土器、サヌカイト片、土師器	
みかやまにしいせき 三ヶ山西遺跡	散布地				
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡	中世	溝5条、柱穴1基	土師器、瓦器	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	溝、石列	瓦、陶磁器	
はぶいせき 土生遺跡	集落跡	古墳時代、中世	溝1条(古墳時代)、溝5条(中世)	弥生土器、石器	
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡	中世	土坑3基	土師器、瓦器	
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡	中世	鋤溝	土師器、瓦器	
みかやまにしいせき 三ヶ山西遺跡	散布地	中世	鋤溝4基、柱穴6基	土師器、瓦器	

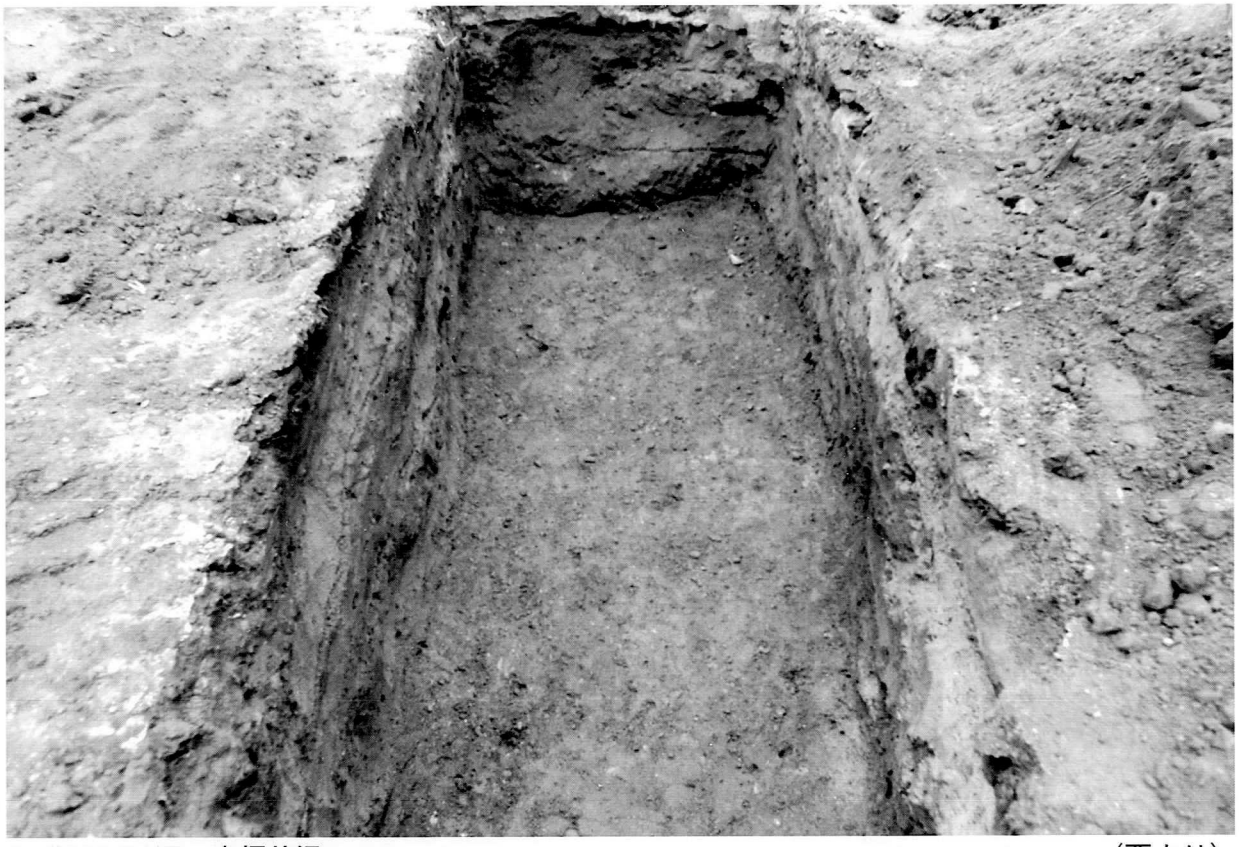
図　　版

図版1　小瀬大道端遺跡（2007-7区）・小瀬五所山遺跡（2007-15区）

1. 2007-7区　遺構検出状況　（北より）

2. 2007-15区　完掘状況　（西より）

図版2　貝塚寺内町遺跡（2006-61区・2007-22区）



1. 2006-61区　完掘状況　（西より）

2. 2007-22区　遺構完掘状況　（北より）

図版3　加治・神前・畠中遺跡（2006-71区・2007-21区）

1. 2006-71区　完掘状況　（西より）

2. 2007-21区　完掘状況　（南東より）

図版4　加治・神前・畠中遺跡（2007-36区・2007-16区）

1. 2007-36区　完掘状況　（東より）

2. 2007-16区　完掘状況　（東より）

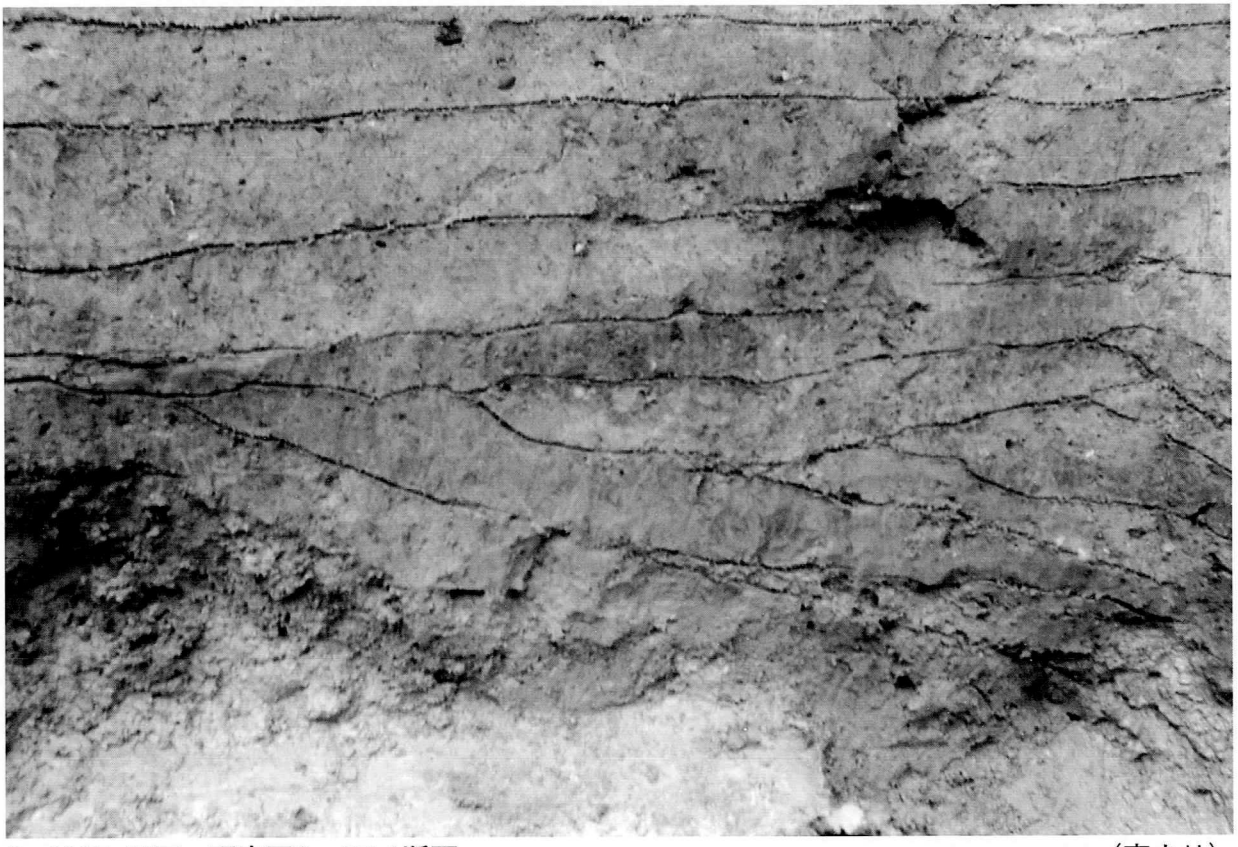
図版5　加治・神前・畠中遺跡（2007-43区）

1. 2007-43区　　調査区1　完掘状況　　（北より）

2. 2007-43区　調査区2　遺構検出状況　　（南より）

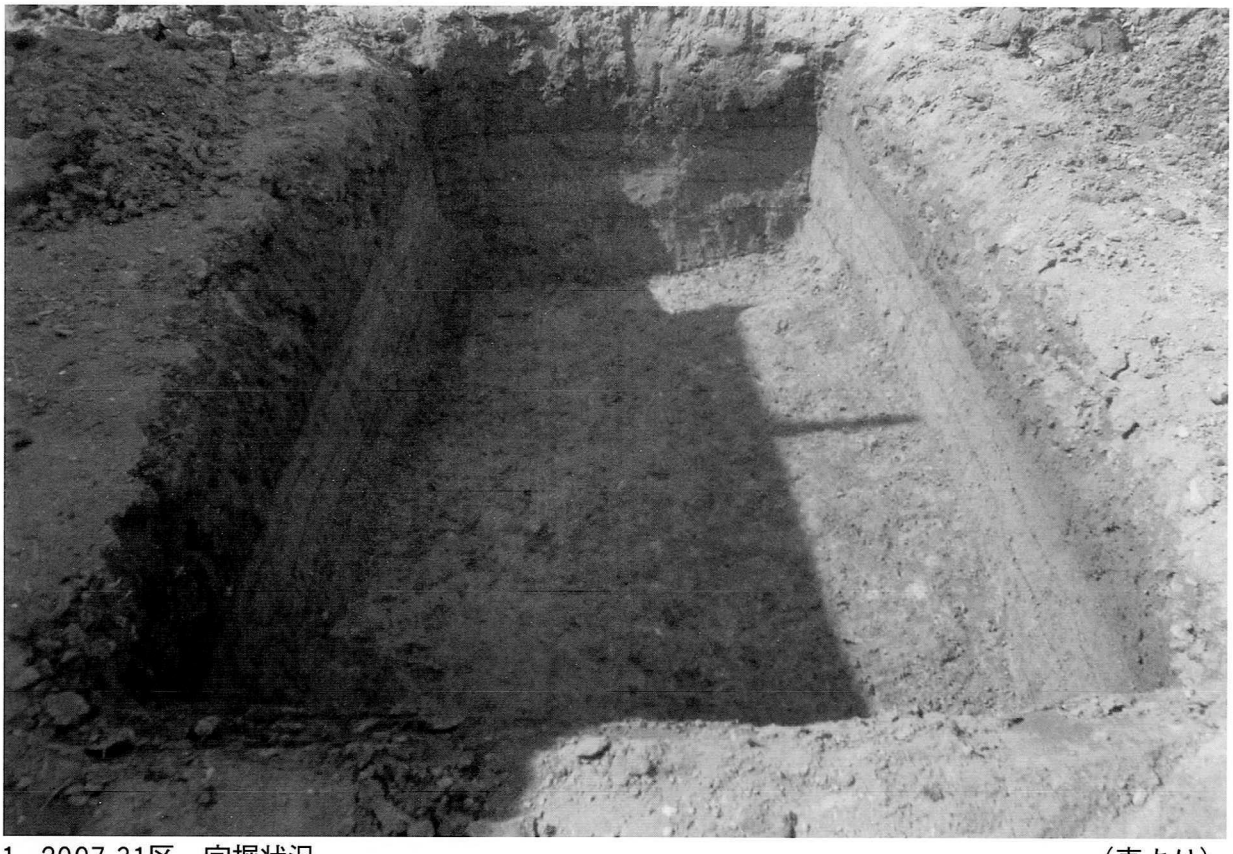
図版6　加治・神前・畠中遺跡（2007-43区）

1. 2007-43区　調査区2　SD-1断面　（西より）

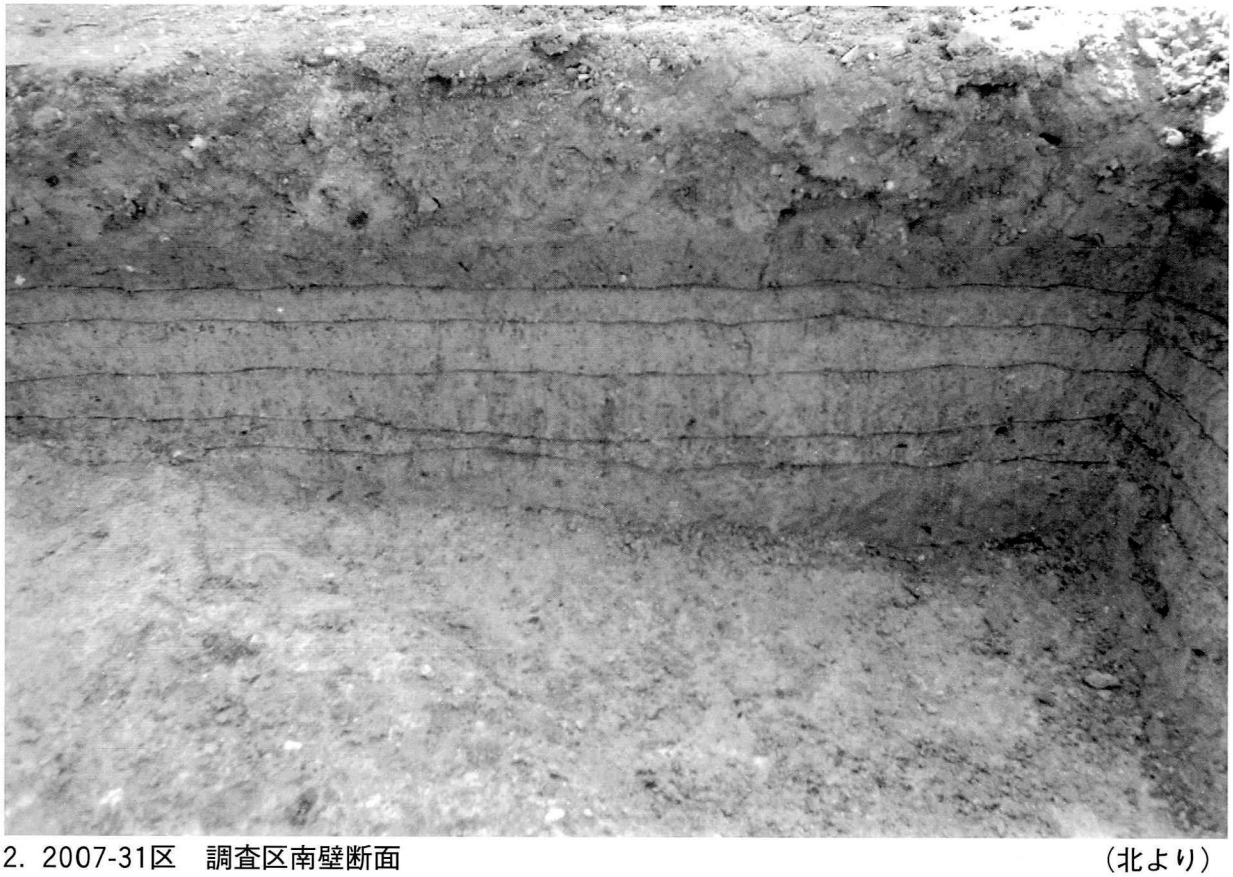


2. 2007-43区　調査区2　SD-1断面　（南より）

図版7　新井ノ池遺跡（2007-31区）

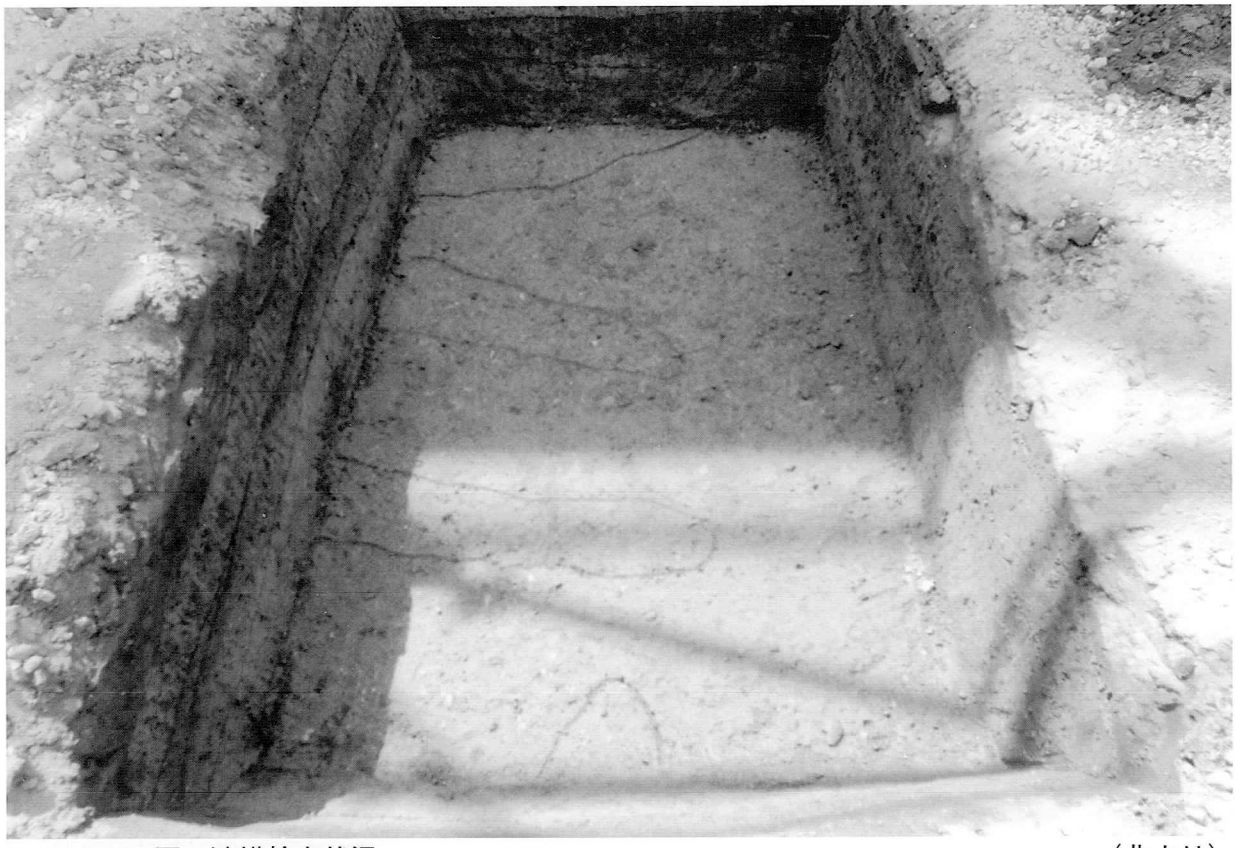


1. 2007-31区　完掘状況　（東より）

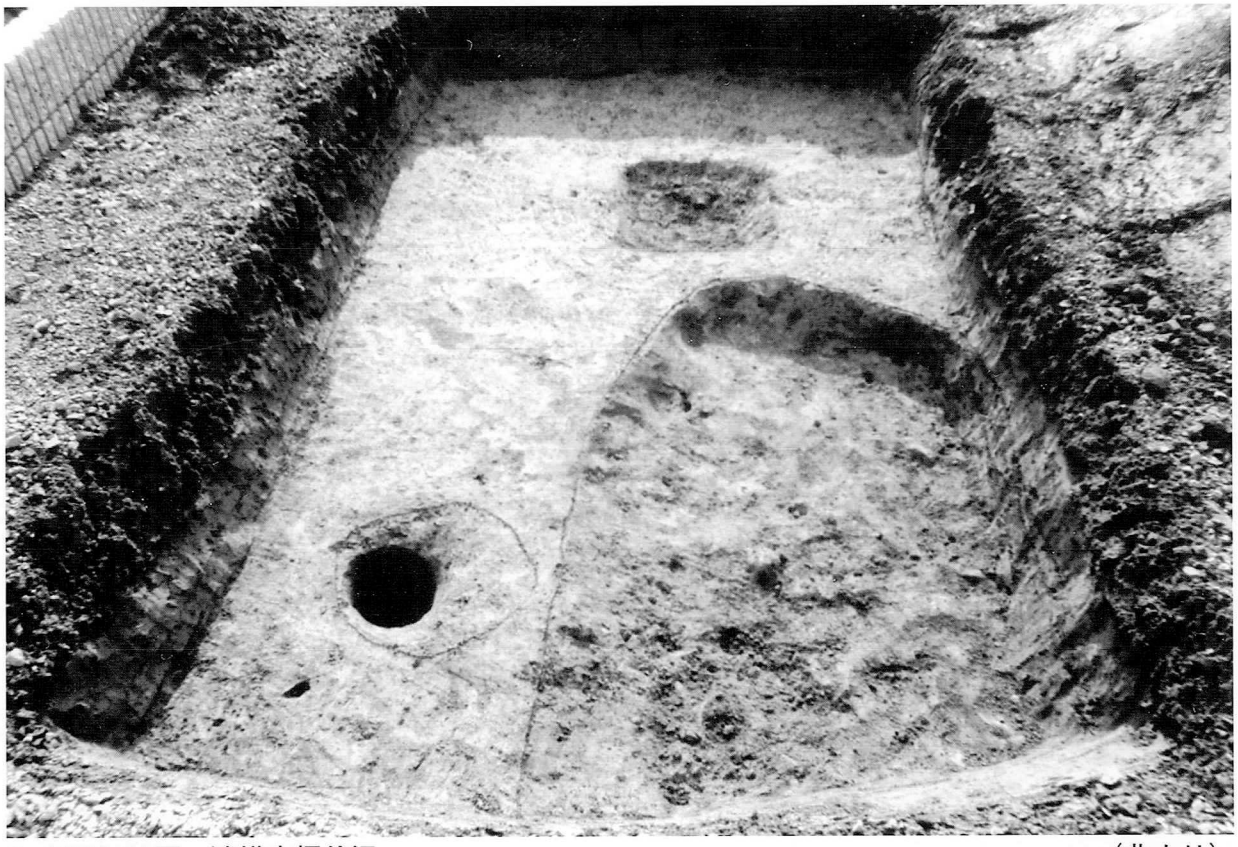


2. 2007-31区　調査区南壁断面　（北より）

図版8　海塚遺跡（2007-17区）・石才南遺跡（2006-62区）



1. 2007-17区　遺構検出状況　（北より）



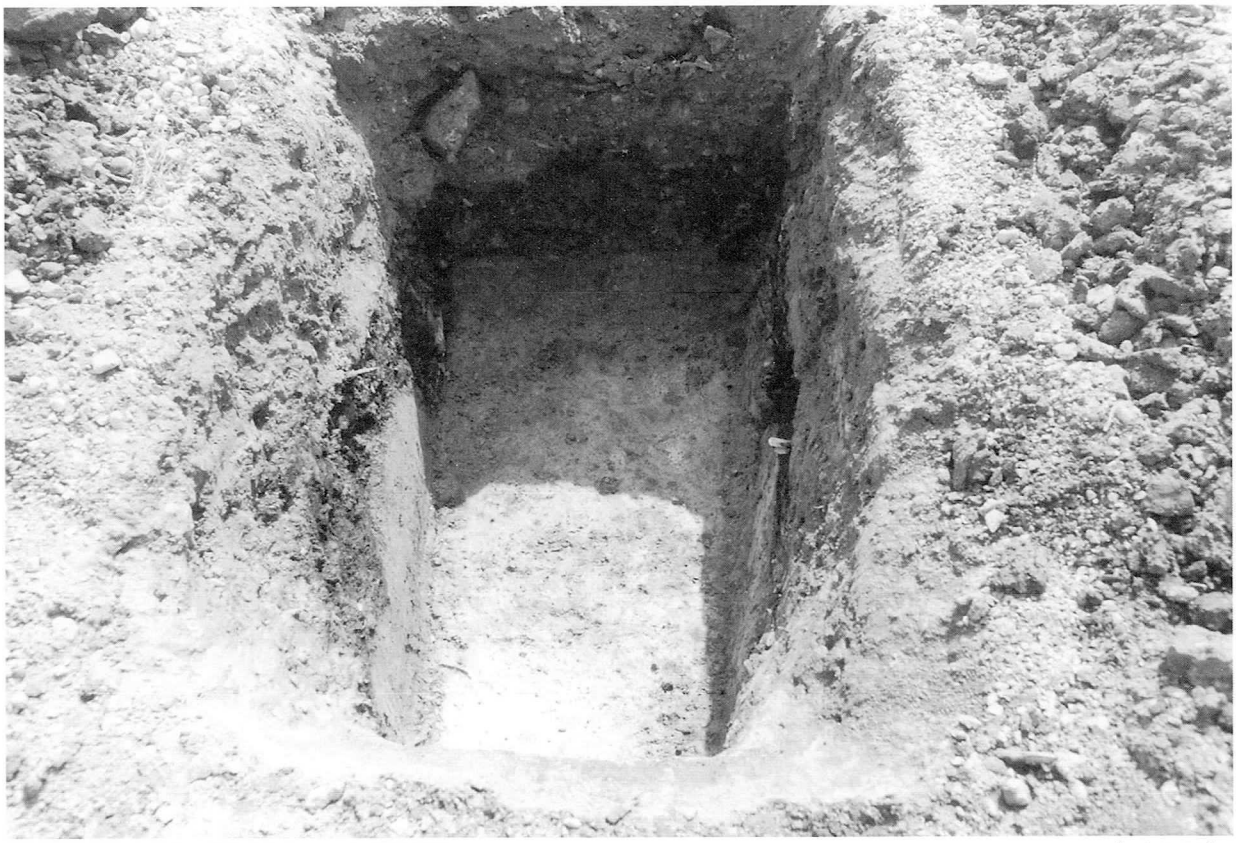
2. 2006-62区　遺構完掘状況　（北より）

図版9　脇浜遺跡（2007-33区・2007-42区）

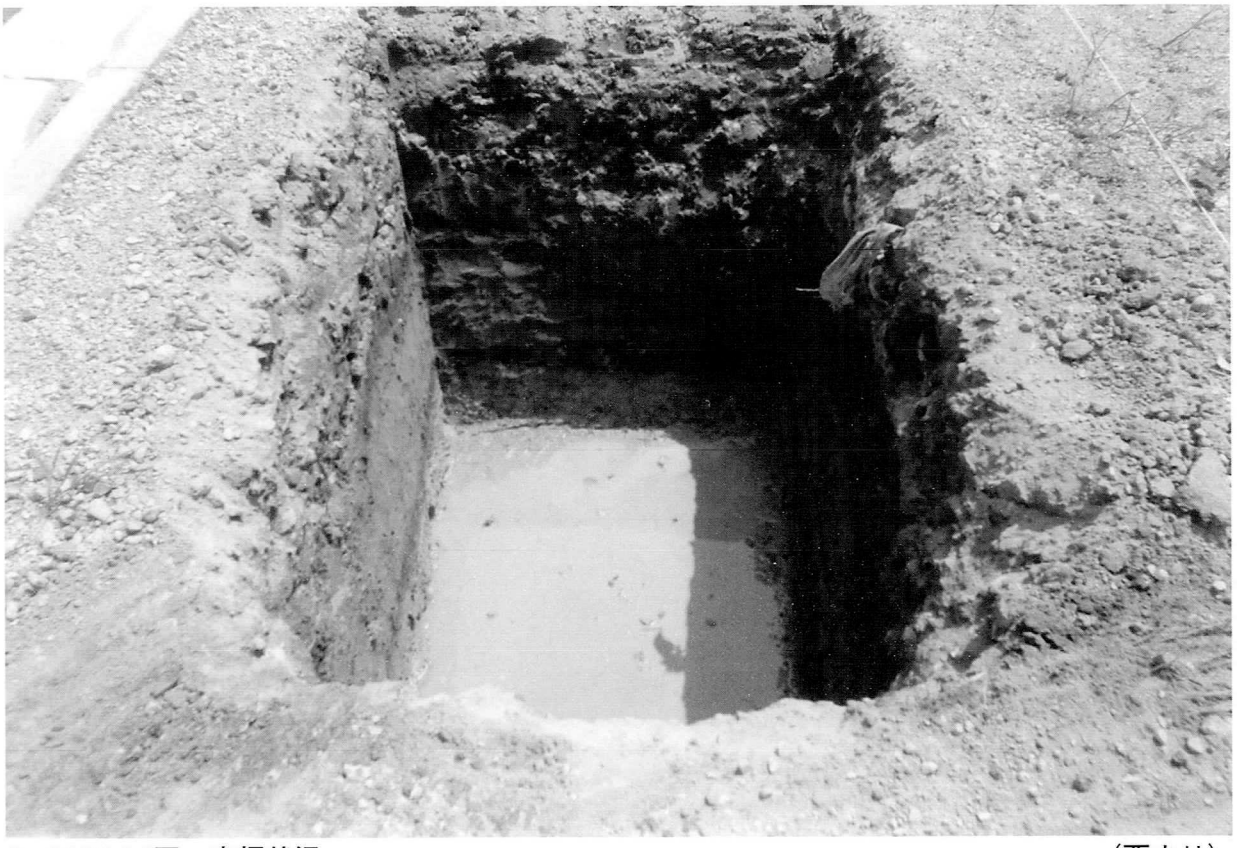
1. 2007-33区　完掘状況　（北より）

2. 2007-42区　遺構検出状況　（西より）

図版10　地蔵堂遺跡（2006-73区・2007-14区）



1. 2006-73区　調査区2　完掘状況　（西より）



2. 2007-14区　完掘状況　（西より）

図版11　沢城跡（2006-68区）・窪田遺跡・窪田廃寺（2007-32区）

1. 2006-68区　完掘状況　（西より）

2. 2007-32区　完掘状況　（西より）

図版12　堤三宅遺跡（2007-37区）・王子西遺跡（2007-35区）

1. 2007-37区　調査区3　遺構検出状況　（東より）

2. 2007-35区　遺構完掘状況　（東より）

貝塚市埋蔵文化財発掘調査報告　第76集

貝塚市遺跡群発掘調査概要30

発　行　日　平成20年(2008) 3 月31日

編集・発行　貝塚市教育委員会
大阪府貝塚市畠中1丁目17番1号

印　　刷　株式会社　帯谷印刷所
大阪府貝塚市北町19番14号